

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 665 集

あかまえ

赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書

市道赤前上下線道路整備事業関連遺跡発掘調査

2017

宮古市都市整備部建設課
(公財) 岩手県文化振興事業団

赤前Ⅲ遺跡発掘調査報告書

市道赤前上下線道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、市道赤前上下線道路整備事業に関連して、平成27年度に発掘調査された赤前Ⅲ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査により、本遺跡は山裾の緩斜面部には縄文時代中期と平安時代の集落があったこと、山の中腹部には古代の炭窯や近世及びそれ以降の墓所となっていたことが分かりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました宮古市都市整備部建設課並びに同市教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成29年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

1. 本報告書は岩手県宮古市赤前第11地割他に所在する赤前Ⅲ遺跡の発掘調査成果を取録したものである。
2. 上記遺跡の調査は、市道赤前上下線道路整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と宮古市都市整備部建設課との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される各遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。
赤前Ⅲ遺跡：遺跡番号 LG54-1025、遺跡略号 AMⅢ-15
4. 発掘調査の期間、調査面積、担当者は次のとおりである。
期間：平成27年8月3日～10月15日、11月9日～11月26日(10月16日～11月8日は事業地内の樹木伐採を実施したため、野外調査は中断した)
面積：2,670㎡
担当：杉沢昭太郎・藤原雅仁・澤美咲
5. 室内整理の期間は次のとおりである。
平成27年11月1日～平成28年3月31日 担当：藤原雅仁・澤美咲
6. 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。
基準点測量： 榊鈴木測量設計 空中写真撮影：東邦航空株式会社
7. 遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。
年代測定：榊加速器分析研究所
8. 発掘・整理・報告にあたっては次の方々にご指導・ご協力いただいた(順不同・敬称略)。
宮古市都市整備部建設課、宮古市教育委員会、岩手県教育委員会
9. 本報告書の執筆は、I章の調査に至る経過は宮古市都市整備部建設課に原稿を依頼した。II～IV・VI章は杉沢が執筆し図化は藤原・澤が行った。報告書の編集・校正は杉沢が行った。
10. 本遺跡の調査成果は、先に、『現地公開資料』(平成27年)、『平成27年度発掘調査報告書』(岩文振第661集)に発表しているが、本書の内容が優先するものである。
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 遺跡周辺の地形	2
2 遺跡周辺の地質	3
3 周辺の遺跡	4
III 調査・整理の方法	6
IV 検出された遺構と出土遺物	
1 概 要	13
2 基本層序	13
3 検出遺構	13
(1) 堅穴建物跡	13
(2) 炭 窯 跡	16
(3) 土坑・陥し穴・墓壇	17
(4) 柱 穴	17
4 出土遺物	27
(1) 縄文土器	27
(2) 石 器	27
(3) 土 師 器	27
(4) 陶 磁 器	27
(5) 銭 貨	27
(6) 銅 製 品	27
(7) 鉄 製 品	28
(8) 羽 口・鉄滓	28
V 自然科学分析	
赤前III遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	57
VI 総括 (調査のまとめ)	60
報告書抄録	114

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	土坑・墓壇類観察表	46
第3表	柱穴観察表	48
第4表	縄文土器観察表	48
第5表	土師器観察表	49
第6表	陶磁器観察表	49
第7表	羽口観察表	49
第8表	鉄滓観察表	49
第9表	鉄製品観察表	50
第10表	銅製品観察表	50
第11表	銭貨観察表	51
第12表	石器類観察表	56

図 版 目 次

第1図	岩手県図	1	第20図	柱穴、陥し穴	25
第2図	遺跡周辺の地形	2	第21図	出土遺物 1	29
第3図	地質図	3	第22図	出土遺物 2	30
第4図	周辺の遺跡	4	第23図	出土遺物 3	31
第5図	遺跡範囲と調査区	8	第24図	出土遺物 4	32
第6図	遺構配置図 1	9	第25図	出土遺物 5	33
第7図	遺構配置図 2	10	第26図	出土遺物 6	34
第8図	遺構配置図 3	11	第27図	出土遺物 7	35
第9図	遺構配置図 4	12	第28図	出土遺物 8	36
第10図	基本土層	13	第29図	出土遺物 9	37
第11図	S I O 1 竪穴住居跡	14	第30図	出土遺物 10	38
第12図	S I O 2 竪穴住居跡	15	第31図	出土遺物 11	39
第13図	炭窯、土坑・墓壇 1	18	第32図	出土遺物 12	40
第14図	土坑・墓壇 2	19	第33図	出土遺物 13	41
第15図	土坑・墓壇 3	20	第34図	出土遺物 14	42
第16図	土坑・墓壇 4	21	第35図	出土遺物 15	43
第17図	土坑・墓壇 5	22	第36図	出土遺物 16	44
第18図	土坑・墓壇 6	23	第37図	出土遺物 17	45
第19図	土坑・墓壇 7	24			

写真図版目次

写真図版1	北側調査区近景(上が北)……………	62	写真図版27	出土遺物4……………	88
写真図版2	遺跡遠景……………	63	写真図版28	出土遺物5……………	89
写真図版3	遺跡近景……………	64	写真図版29	出土遺物6……………	90
写真図版4	S I O 1 壑穴住居跡1……………	65	写真図版30	出土遺物7……………	91
写真図版5	S I O 1 壑穴住居跡2……………	66	写真図版31	出土遺物8……………	92
写真図版6	S I O 2 壑穴住居跡……………	67	写真図版32	出土遺物9……………	93
写真図版7	S I O 2 壑穴住居跡・基本土層……………	68	写真図版33	出土遺物10……………	94
写真図版8	S X O 1 炭窯跡1……………	69	写真図版34	出土遺物11……………	95
写真図版9	S X O 1 炭窯跡2、土坑・墓壇1……………	70	写真図版35	出土遺物12……………	96
写真図版10	土坑・墓壇2……………	71	写真図版36	出土遺物13……………	97
写真図版11	土坑・墓壇3……………	72	写真図版37	出土遺物14……………	98
写真図版12	土坑・墓壇4……………	73	写真図版38	出土遺物15……………	99
写真図版13	土坑・墓壇5……………	74	写真図版39	出土遺物16……………	100
写真図版14	土坑・墓壇6……………	75	写真図版40	出土遺物17……………	101
写真図版15	土坑・墓壇7……………	76	写真図版41	出土遺物18……………	102
写真図版16	土坑・墓壇8……………	77	写真図版42	出土遺物19……………	103
写真図版17	土坑・墓壇9……………	78	写真図版43	出土遺物20……………	104
写真図版18	土坑・墓壇10……………	79	写真図版44	出土遺物21……………	105
写真図版19	土坑・墓壇11……………	80	写真図版45	出土遺物22……………	106
写真図版20	土坑・墓壇12……………	81	写真図版46	出土遺物23……………	107
写真図版21	土坑・墓壇13……………	82	写真図版47	出土遺物24……………	108
写真図版22	土坑・墓壇14……………	83	写真図版48	出土遺物25……………	109
写真図版23	北側調査区近景ほか……………	84	写真図版49	出土遺物26……………	110
写真図版24	出土遺物1……………	85	写真図版50	出土遺物27……………	111
写真図版25	出土遺物2……………	86	写真図版51	出土遺物28……………	112
写真図版26	出土遺物3……………	87	写真図版52	出土遺物29……………	113

I 調査に至る経過

1 発掘調査に至る経過

赤前Ⅲ遺跡は、「赤前上下線道路整備事業(2工区)」の道路新設工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

市道赤前上下線道路整備事業は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災した赤前地区において、防災集団促進事業で造成した高台地区と県が新しく整備する主要地方道重茂半島線へ接続し安全性、利便性の高い道路として整備するもので、「安全な地域づくり」を推進するとともに、「すまいとくらしの再建」に欠かせない道路である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、宮古市都市整備部建設課から平成26年9月19日付建第303号「赤前上下線道路整備事業実施計画における埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により宮古市教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた宮古市教育委員会は平成26年10月22日から試掘調査を実施し、工事に着手するには赤前Ⅲ遺跡の発掘調査が必要になる旨を平成26年12月18日付教文第729号「試掘調査の結果について(報告)」により宮古市都市整備部建設課に報告してきた。

その結果を踏まえて当建設課は、宮古市教育委員会及び岩手県教育委員会の調整を受けて、平成27年7月31日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(宮古市都市整備部建設課)



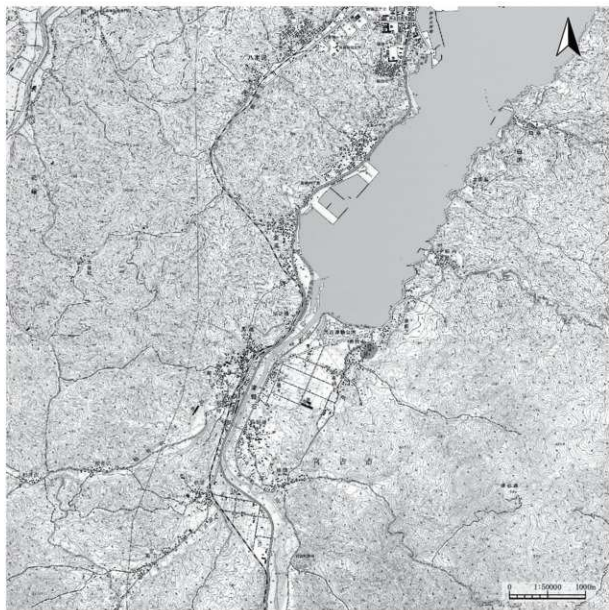
第1図 岩手県図

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡周辺の地形

三陸海岸は宮古市を境として、南は沈降性のリアス海岸が続き大小の湾を形成し変化にとんだ景色を見せ、北は隆起性の段丘海岸が発達している。本州の最東端にある重茂半島は北東に向かって太平洋に突出し、十二神山(731m)を頂上とする山塊に占められ縁辺部にわずかな丘陵地を形成する。宮古湾は重茂半島の西側に位置し、リアス海岸の北端となっている。この宮古湾は重茂半島の閉伊崎から湾頭の津軽石川河口までの奥行10kmの北に開いた湾である。水深は湾奥部で20mと比較的浅く、湾内では牡蠣などの養殖が行われている。赤前Ⅲ遺跡は重茂半島を構成する中起状山地から流れ出る小河川により形成された扇状地に立地しており北西向きのだらかな傾斜上に所在している。

標高は30m前後であり、東日本大震災時の浸水域ではない。



第2図 遺跡周辺の地形

2 遺跡周辺の地質

三陸海岸の湾入部の一つであり、リアス式海岸の北端に位置する宮古湾は重茂半島の閉伊崎から湾頭の津軽石川河口までの奥行10kmの北に開いた湾である。この宮古湾の北側では、陸地に深く入り込む湾入地形は認められない。一方で宮古から北方の沿岸陸上地形で著しい現象として、田老から久慈・八戸方面まで高位海岸段丘面の発達が認められる。また、高位海岸段丘面は宮古から南ではほとんど発達が見られない。つまり、宮古を境にして南側は、牡鹿半島までの沈降性のリアス式海岸と北は八戸に至る隆起性の段丘海岸である。赤前遺跡の位置する宮古湾の湾東部東岸は新期河岸段丘及び崖錐堆積物であるため、礫・砂及び粘土で構成されている。遺構周辺は原地山層のデイサイト質火砕岩と大浦花崗岩の角閃石黒雲母アダメロ岩で構成されている。



第3図 地質図

3 周辺の遺跡

今回調査した赤前Ⅲ遺跡の周辺にある遺跡については第4図及び第1表にまとめた。



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡コード	時代	種別
1	赤間Ⅲ	1654-1625	縄文・平安	集落跡
2	赤間Ⅳ八枚田	1654-1608	縄文・平安	集落跡
3	赤間Ⅴ榊久	1654-6909	縄文・古代	集落跡
4	赤間Ⅵ榊久	1654-6160	縄文・古代・近世	集落跡
5	子屋内Ⅰ	1654-6113	縄文・弥生・奈良	集落跡
6	子屋内Ⅱ	1654-6123	縄文	集落跡
7	子屋内Ⅲ	1654-6142	縄文・奈良	集落跡
8	堀内Ⅰ	1644-2435	縄文	集落跡
9	堀内Ⅱ	1644-2167	縄文	集落跡
10	堀内Ⅲ	1644-2290	縄文	集落跡
11	堀内Ⅳ	1644-2176	縄文	集落跡
12	堀内Ⅴ	1644-2195	縄文	集落跡
13	白浜太田Ⅱ	1644-1234	縄文	集落跡
14	白浜太田Ⅲ	1644-1271	縄文	集落跡
15	白浜太田Ⅳ	1644-1282	縄文	集落跡
16	白浜太田Ⅴ	1644-1290	縄文	集落跡
17	磯崎船山	1634-2135	縄文～中世	集落跡・城跡
18	弘沢Ⅰ	1634-2026	古代	集落跡
19	弘沢Ⅱ	1634-2097	縄文・平安	集落跡
20	高田Ⅰ	1634-2091	平安・古代	集落跡
21	高田Ⅱ	1643-6338	古代	集落跡
22	磯崎竹原Ⅱ	1634-2001	平安・古代	集落跡
23	磯崎時	1633-2344	縄文・古代	集落跡
24	磯崎中谷地	1644-0603	古代	集落跡
25	八木沢古瀬	1643-6357	中世	城跡
26	八木沢中田	1643-6364	近世	城跡
27	八木沢新田	1643-6312	縄文・近世	集落跡
28	八木沢守ノ廻Ⅰ	1643-6310	縄文	集落跡
29	八木沢守ノ廻Ⅱ	1633-2288	縄文	集落跡
30	八木沢守ノ廻Ⅲ	1633-2372	縄文・古代	集落跡
31	八木沢守ノ廻Ⅳ	1633-2351	縄文・弥生・古代	集落跡
32	松山下谷地	1633-2162	縄文・古代	集落跡
33	豊の沖	1643-2269	縄文	集落跡
34	木戸井内Ⅲ	1633-2149	古代・弥生	集落跡
35	木戸井内Ⅳ	1633-2149	縄文	集落跡
36	八木沢Ⅰ白山下	1643-6330	縄文	集落跡
37	八木沢Ⅱ	1643-6295	縄文	集落跡
38	八木沢Ⅲ	1643-6238	古代	集落跡
39	隠里Ⅰ	1633-2197	縄文・古代	集落跡
40	隠里Ⅱ	1633-2280	縄文・古代	集落跡
41	隠里Ⅲ	1633-2292	縄文・古代	集落跡
42	隠里Ⅳ	1643-6209	縄文・古代	集落跡
43	隠里Ⅴ	1643-6212	古代	集落跡
44	隠里Ⅵ	1643-6200	古代	集落跡
45	隠里Ⅶ	1643-6138	縄文	集落跡
46	隠里Ⅷ	1633-2280	縄文	集落跡
47	松山大地田次	1633-2166	古代	集落跡
48	七所沢Ⅰ	1643-6102	古代	集落跡
49	七所沢Ⅱ	1643-6122	縄文	集落跡
50	七所沢Ⅲ	1643-6163	縄文	集落跡
51	八木沢ラントノ沢Ⅰ	1643-6279	縄文	集落跡
52	八木沢ラントノ沢Ⅱ	1643-6269	縄文	集落跡
53	八木沢駒込Ⅰ	1643-1206	縄文・古代	集落跡
54	八木沢駒込Ⅱ	1643-1244	縄文	集落跡
55	八木沢野末	1643-1257	縄文	集落跡
56	下大谷地Ⅰ	1643-2206	縄文	集落跡
57	下大谷地Ⅱ	1643-2204	縄文	集落跡
58	下大谷地Ⅲ	1643-2222	縄文	集落跡
59	下大谷地Ⅳ	1643-2233	縄文	集落跡

No.	遺跡名	遺跡コード	時代	種別
60	下大谷地Ⅴ	1643-2264	縄文	集落跡
61	下大谷地Ⅵ	1643-2147	縄文	集落跡
62	大谷地Ⅰ	1643-2143	縄文	集落跡
63	高浜Ⅰ坂ノ下	1644-9095	縄文	集落跡
64	高浜Ⅱ今ノ洞	1644-1013	縄文	集落跡
65	高浜Ⅲ野新	1644-1032	縄文	集落跡
66	高浜Ⅳ横須賀	1643-1369	縄文	集落跡
67	高浜Ⅴ下地沖	1643-1398	縄文	集落跡
68	高浜Ⅵ地沖	1643-2318	縄文	集落跡
69	金山屋	1643-2335	中世・縄文	城跡
70	金山屋ノ沢	1643-2314		城跡
71	金山Ⅰ	1643-2342	縄文・平安	集落跡
72	金山Ⅱ	1643-2363	古代	集落跡
73	金山Ⅲ	1643-2384	縄文・古代	集落跡
74	金山Ⅳ	1643-2394	縄文	集落跡
75	金山Ⅴ	1633-9315	縄文	集落跡
76	山崎屋	1633-9382	中世	城跡
77	幸原屋	1634-1064	中世	城跡
78	幸原Ⅰ牛子沢	1634-1072	縄文	集落跡
79	久保田	1633-1389	縄文・古代	集落跡
80	藤田	1633-2346	縄文・古代	集落跡
81	西郷Ⅰ	1633-9268	縄文・古代	集落跡
82	西郷Ⅱ	1633-9246	古代	集落跡
83	淨野石大森	1633-1207	縄文	集落跡
84	沼屋	1633-1225	縄文・奈良	集落跡
85	沼屋Ⅱ	1633-1266	中世	城跡
86	高平屋	1633-2205	中世	城跡
87	弘川屋	1633-2264	中世	城跡
88	弘川Ⅰ	1633-2294	縄文・奈良・中世	集落跡
89	弘川Ⅱ	1633-2291	縄文・古代	集落跡
90	弘川Ⅲ	1633-9290	縄文・古代	集落跡
91	堀井沢穴田Ⅰ	1633-1273	縄文・古代	集落跡
92	堀井沢穴田Ⅱ	1633-1281	縄文	集落跡
93	堀井沢穴田Ⅲ	1633-1290	縄文	集落跡
94	堀井沢穴田Ⅳ	1633-2281	縄文	集落跡
95	堀井沢穴田Ⅴ	1633-2129	縄文	集落跡
96	堀井沢日影Ⅰ	1633-2148	縄文	集落跡
97	堀井沢日影Ⅱ	1633-2164	縄文	集落跡
98	堀井沢Ⅰ	1633-2152	縄文・弥生・平安	集落跡
99	堀井沢寺ノ沢	1633-1194	古代	集落跡
100	筒竹日向Ⅰ	1633-9157	縄文・古代	集落跡
101	筒竹日向Ⅱ	1633-9159	縄文	集落跡
102	筒竹日向Ⅲ	1633-9157	縄文・古代	集落跡
103	筒竹日向Ⅳ	1633-9177	縄文・平安	集落跡
104	筒竹日向Ⅴ	1633-9174	縄文	集落跡
105	筒竹日影Ⅰ	1633-9272		
106	筒竹日影Ⅱ	1633-9280		
107	筒竹日影Ⅲ	1633-1154	古代	集落跡
108	筒竹日影Ⅳ	1633-1152	古代	集落跡
109	筒竹日影Ⅴ	1633-1140	古代	集落跡
110	筒竹末山Ⅰ	1633-9190	縄文・弥生・平安	集落跡
111	筒竹末山Ⅱ	1633-1111		
112	筒竹末山Ⅲ	1633-1019		
113	石神屋	1633-1264	不明	城跡
114	石崎屋	1633-2116	縄文	集落跡
115	内館	1633-2169	中世	城跡
116	トビカタⅠ	1633-1195		
117	野野沢	1633-1209	縄文	集落跡
118	大路	1634-1002		

III 調査・整理の方法

野 外 調 査

調査区の設定と遺構の命名

赤前III遺跡は調査対象面積が2,670㎡とそれほど広くなかったが、調査区は山裾部の緩斜面部と山林だった中腹部とに分かれていた。そのため調査区の地区割にあたって、山裾部分を「南側調査区」、山林となっていた中腹部を「北側調査区」と地区割りしている。

平面直角座標(第X系;世界測地系)に合わせた基準点・補点をもとにして、遺構や地形測量を行ったが、独自のグリッド設定はしていない。

基準点1 X=-45958.205 Y=9632.688 H=32.024m

区割付杭の座標値は第7図に記載している。

この基準点と区割付杭を基準として調査区および検出遺構や出土遺物の記録をとった。遺構外出土遺物に関しては上記の調査区ごとに取り上げた。

遺構の名称

遺構名は遺構の種類に応じて略号を用いた。検出順にそれぞれ番号を付けて、S101・S102、SK01・SK02…のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。住居跡(SI) 土坑類(SK) その他(SX)を用いた。

試掘・粗掘(雑物除去)と遺構検出

北側調査区は杉・松を主体とした山林であったため調査中、伐採時に多量に出た樹木(丸太材)及び雑物(枝類)を調査区外へ運び出す作業も行った。それに引き続き調査区の各所にて試掘を行ない重機による表土掘削深度の参考にした。重機で遺構検出面のやや上層まで掘り下げ、続いて人力で掘り下げて遺構検出をした。南側調査区では重機を使わず人力で表土除去を行っている。

精査・実測

検出遺構は、可能な限り基本通りに4分法、2分法で調査したが、複雑に重複する遺構では出来なかったものもある。そして精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行った。遺構内出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区ごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行った。場合によりFieldCardにも遺構の調査状況を記録している。

実測・写真撮影

電子平板を使用して平面実測を行った。レベルは、基準高をもとに絶対高で記録される。断面実測については、任意の高さを基に設定した水系を基準として計測を行い、縮尺1/20の手書き実測図とした。

写真撮影は、中判1台(モノクローム)、1000万画素以上の一眼レフデジタルカメラ1台を使用して

調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。調査終了段階で小型飛行機による航空写真撮影を行っている。

土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土の種類・締まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』(1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著)をもとに行っているが、締まりは、調査員の主観で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然堆積か人為堆積かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字(I・II・III)、遺構内埋土をアラビア数字(1・2・3)で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、I a・I b・I c・・・などと表わした。

その他

今回の調査では約70基の墓壇を調査した。墓壇の時期は近世から近代初頭が中心であり、この中で約25基の墓壇から人骨が出土している。これらの遺骨は野外調査終了後、一括して供養・火葬し宮古市市営墓地の供養塔内へ納骨している(平成28年1月22日)

室内整理

室内整理の期間は平成27年11月1日～平成28年3月31日である。

期間内で、出土遺物・実測図・写真などの整理を行った。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化した。

遺構に関わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、デジタルトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で計測した情報をそのまま保存することとし、編集用データは、手実測で記録したその他の実測図と合成し、遺構図版を作成している。

野外調査で撮影した写真については調査区ごとに分類し整理した。その中から代表的な写真を選び遺構写真図版を作成し報告書に掲載している。

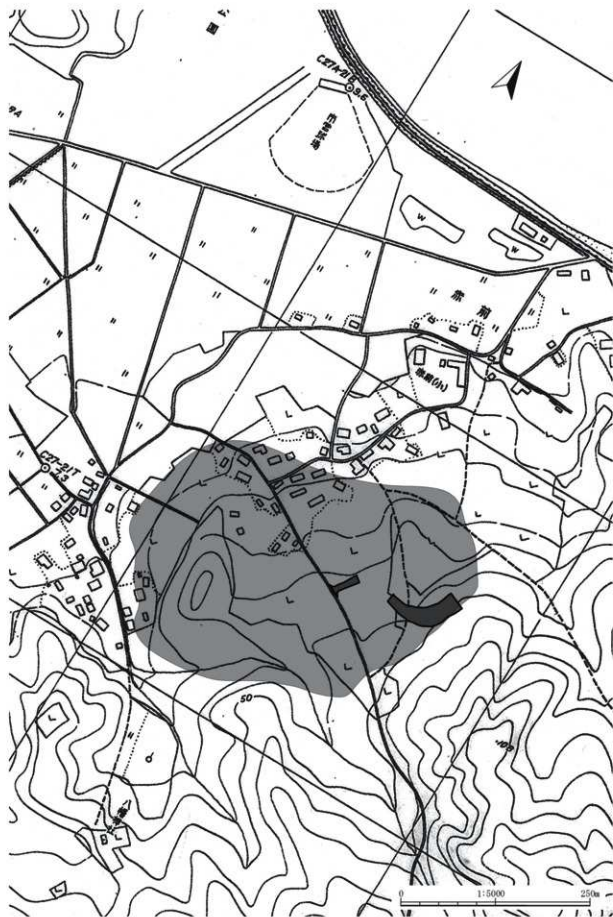
撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。

遺物の整理

遺物は現地及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物Noを各破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物は調査区ごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は実大とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。放射性炭素年代測定の分析は外部の専門機関に委託した。

遺物の選別・図化の基準

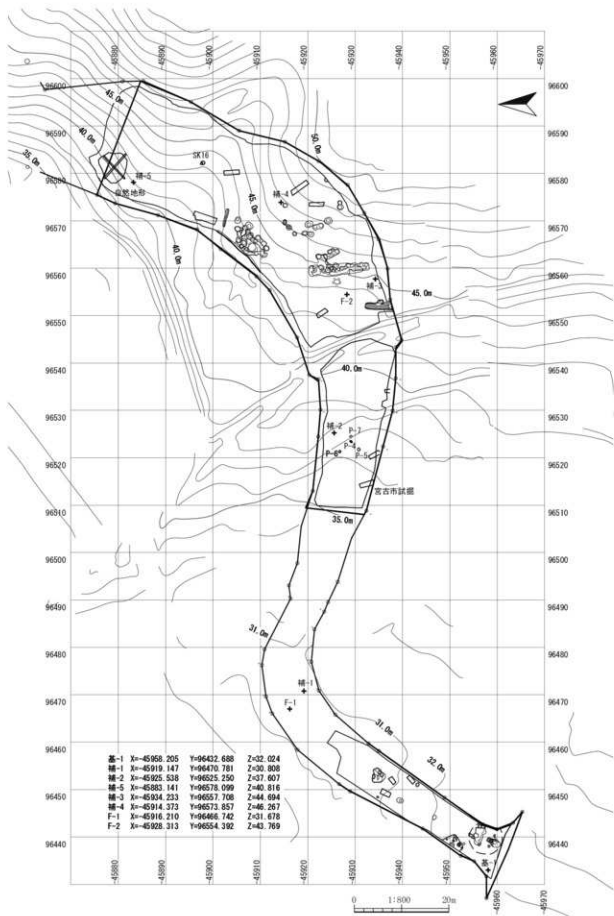
遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針を進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準に従って選んだ一部の資料である。各遺構に伴う遺物を最優先し、遺構外出土であっても本遺跡を代表するものについては掲載した。また、各種の遺物については破片数、重量の計測を行い台帳作成している。残りの良い遺物は図や拓本を取り、写真撮影した。そうでないものは写真だけ撮っている。



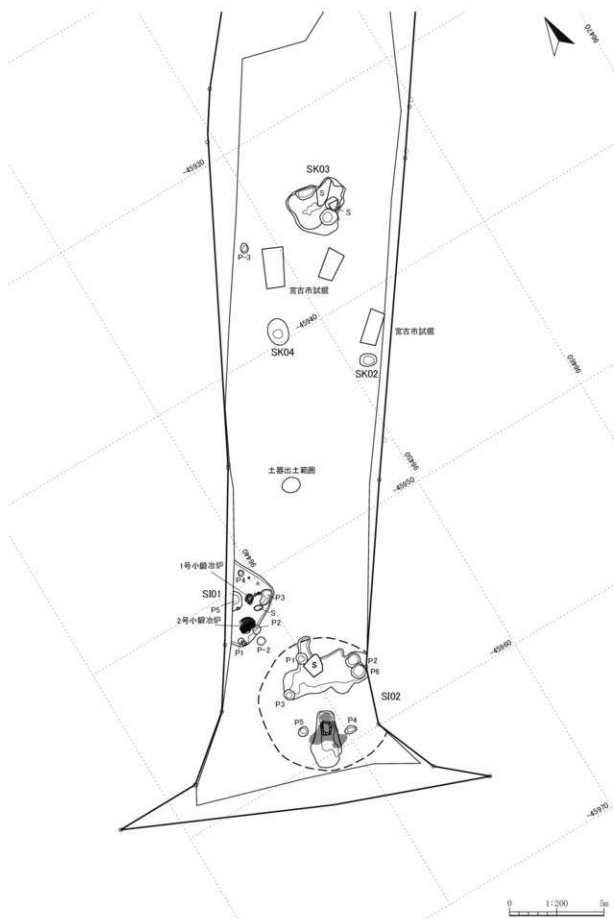
第5図 遺跡範囲と調査区



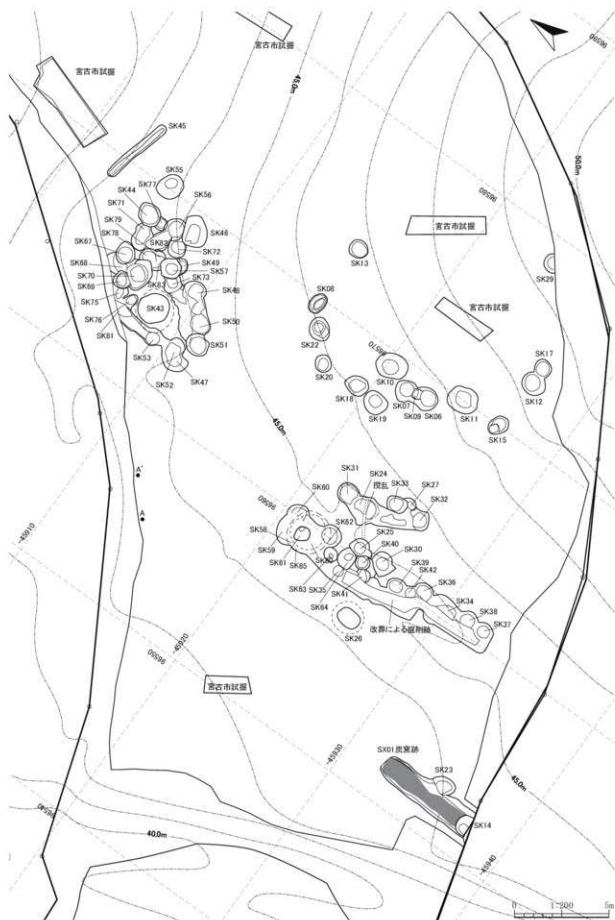
第6図 遺構配置図1



第7図 遺構配置図2



第8図 遺構配置図3



第9図 遺構配置図4

IV 検出された遺構と出土遺物

1 概 要

本遺跡は宮古市赤前第11地割83-1他にある。遺跡の範囲は東西約300m×南北約250mと広く、現況は大きく分けて南側の住宅地と北側の山林部からなる。住宅地の多い山裾の緩斜面部を「南側調査区」、山林となっていた山の中腹部を「北側調査区」と呼ぶこととした。遺跡の東辺部を調査したことになる。

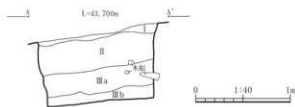
遺構は縄文時代中期後半の竪穴住居跡1棟・土坑2基・陥し穴1基、平安時代の竪穴住居跡1棟・中世の炭窯1基、近世～近代初頭の墓壇73基、土坑6基、柱穴18個が確認されている。

出土遺物は縄文土器と土師器が大コンテナ0.5箱、近世陶磁器0.3箱、銭貨約500枚、煙管・簪・鏡といった銅製品が29点、鉄鍋・刀子等の鉄製品が20点、羽口1点、石器5点が出土した。

2 基本層序

南側調査区は削平されていたため、北側調査区で記録をとった。

- I 10YR2/3黒褐色表土 粘性・締まり弱い
草木根多
- II 10YR4/4褐色土 場所により厚いところと薄いところがある 粘性・締まりやや有り
- IIIa 10YR5/6黄褐色土 粘性やや有り 締まっている 遺構検出面
- IIIb 10YR6/6明黄褐色土 粘性やや有り 締まっている



第10図 基本層序

3 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

S I O 1 (第11図、写真図版4・5)

<位置・検出状況>南側調査区の南西側にあり、III a 層で検出した。柱穴P 2と重複するが本遺構のほうが古い。本遺構は北側が調査区外へと続いている。

<規模・形状>検出面での上幅は5.7m、床面までの深さが0.2mあり、想定される主軸方向はN-26°-Wである。平面形は方形を基調とすると考えられる。床面は概ね平坦であった。所謂貼り床もなく地山面を基本的には床面としていたようである。壁は0.2m程しか残っていないが底面からやや外傾して立ち上がっている。壁溝は無かったが柱穴が3基、やや壁近くで検出されている。

<埋土>部分的に炭粒の混じる褐色土や黒褐色土等からなる自然堆積である。採取した埋土1600L 2gの中に鍛造剥片が28.26g含まれていた。

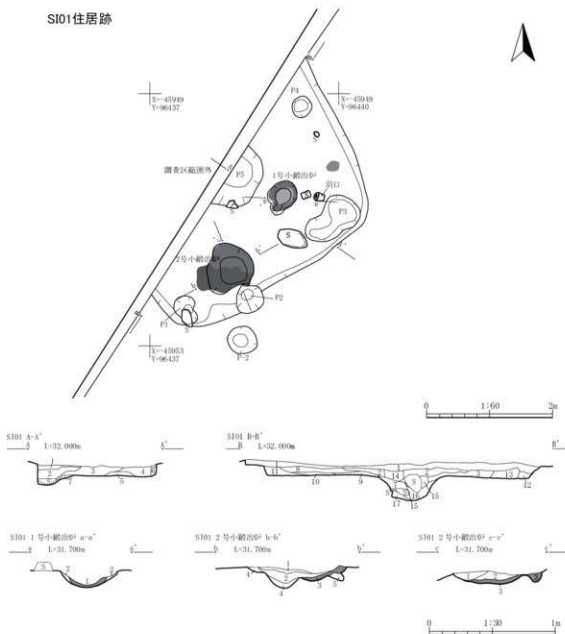
<1号小鍛冶炉>本遺構の南東部床面に0.7×0.6m、深さ0.2mの掘り込みが確認された。掘り込みの底面には焼けた面と、還元焼成で変色した面とが見られた。掘り込みの南西部には羽口を設置していた痕跡が小さな張出状に残っており、こうした状況から小鍛冶の炉跡と判断した。埋土を全て採取

し、その中から鍛造剥片が29.9gを抽出できた。

<2号小鍛冶炉>本遺構の南西部床面に1.2×1.1m、深さ0.2mの不整形円形を呈する掘り込みを検出した。掘り込みの底面は焼けており(3層)、埋土は炭粒を不規則に含む人為堆積であった。この2号小鍛冶炉が先に使われ、1号小鍛冶炉へ造り替えられた時に埋め戻されたと推察される。すべての埋土を採取し、その中から19.36gの鍛造剥片が見つかった。

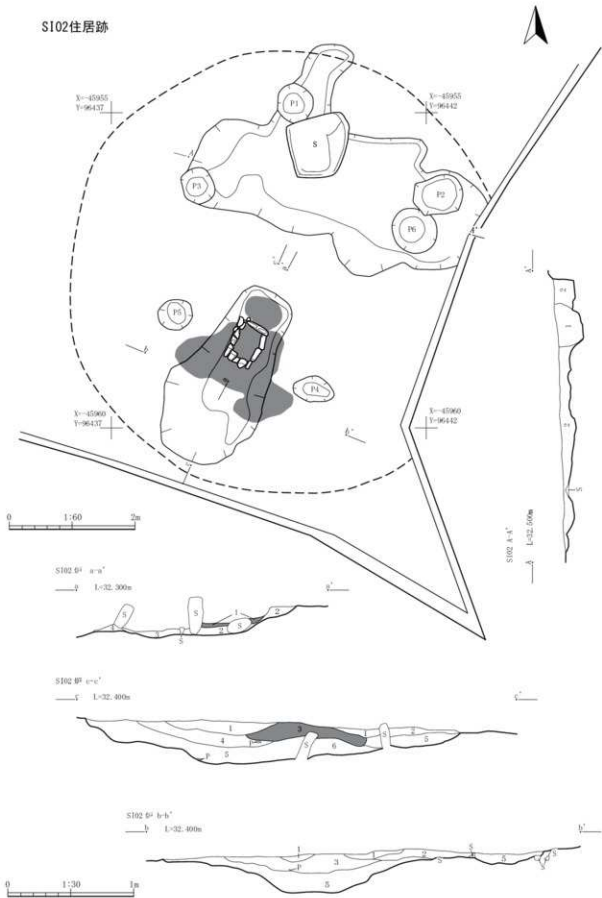
<P5>本遺構のほぼ中央にある。掘り込み内に0.5×0.4mの礫が入っており、これが金床石(断面図にのみ図示)であったことから、金床石を据えていた場所と言えよう。但し金床石は原位置から少し動いて傾いた状態で出土していた。

<出土遺物・時期>(第25図、写真図版24)土師器甕の破片が5点出土している(82~84)。この甕は何れも非クロコである。羽口(85)が1号小鍛冶炉の南東側で見つかった。



第11図 S101 竪穴住居跡

S102住居跡



第12図 S102 竪穴住居跡

<性格>小鍛冶を行っていた空間を有しており、単なる居住のための施設ではなく工房的な利用をしていたものと考えられる。

SI02(第12図、写真図版6・7)

<位置・検出状況>緩斜面地形である南側調査区の南端部にあり、Ⅲa層で検出した。検出段階で既に壁及び床面の一部は削平により失われており、竪穴住居跡とは認識できなかった。炉跡周辺から土器片と焼土粒が比較的多く出土することから不整形な掘り込みにも土器や焼土粒を廃棄している遺構と考えていたが、精査を進めるうちに石囲い部が現れ竪穴住居跡であることが分かった。

<規模・形状>削平により本遺構の上場は失われて無い。床面の範囲も明瞭ではなかった。柱穴の配置、貼り床の広がり等から径約8.7mの床面であったと推定した。炉の形状から想定される主軸方向はN-24°-Eである。床面は概ね平坦であったようだが北側には貼り床も施されている。壁溝は無かったが柱穴が6基、炉跡の傍や貼り床の近辺で検出されている。

<埋土>削平により竪穴住居跡の埋土は失われていた。

<炉跡>所謂複式炉であったことが分かった。床面中央付近から南西壁側に向かって燃焼部、石囲燃焼部、前庭部からなる。燃焼部は1.0×0.6mの隅丸長方形に近い掘り込みを持ち、底部には焼けた痕跡が広がる(1層)。石囲部は0.6×0.4mの範囲を円礫と角礫を組み合わせて囲んでいる。掘り込みの深さは検出面から約0.3mである。埋土は上位に焼土粒と土器細片を多く含む褐色土が広がっており、底面及びその付近に火を焚いていた痕跡ははっきりとは残っていない。前庭部は石囲い部に接続する掘り込みであるが平面プランが不明瞭であったため掘り過ぎの部分もある。2.3×2.0mの掘り込みで深さは検出面から0.4mを測る。埋土に焼土粒や土器片を多量に含んでいたが、焼成面は無かった。

<貼床>本遺構の北東部に5.5×2.9mの範囲で不整な掘り込みが見られた。深さも0.5~0.1mと一定ではない。埋土は人為堆積であった。図にも示しているが内部に1.1×1.0mの大礫があるが、持ち込まれたものではなく、もともとこの地にあったもので、本遺構が機能していた段階にも床面から頭が出た状態になっていた。

<柱穴>炉跡の両脇、貼床部付近から計6基の柱穴を確認した。

<出土遺物・時期>(第21図、写真図版24)炉跡を中心に土器が20268.8g出土している。土器片はその場に置かれていたものではなく、破片が炉周辺に散乱した状態で出土している。殆どが縄文時代中期後半の土器片であった。

(2)炭 窯 跡

SX01炭窯跡(第13・17図、写真図版8・9)

<位置・検出状況>現況が山林となっている北側調査区のほぼ中央部に位置している。検出面はⅢa層とした地山上面である。

<規模・形状>南側が調査区外へ延びているため全体規模は不明であるが、確認できた範囲では長さ5.7m、幅1.5×1.2m、深さは0.5~0.1mを測る。平面形は南北に細長い長円形をしている。削平により本遺構の上場はかなり失われていた。床面は平坦でほぼ全面が焼けて硬く縮まっている。掘り込みの外側(周囲)についても付属施設が無いか精査しているが何も見つかっていない。

<埋土>炭粒を多く含む黒色土及び黒褐色土を主体とする。北側は僅かしか残っていない。

<重複関係>SK14・23墓壇と重複する。何れの遺構より本遺構は古い。

<時期>遺構の形態、AMS年代測定の結果から中世の炭竈であろう

<出土遺物>本遺構に伴う遺物は出土していない。

(3) 土坑・陥し穴・墓壇(第13～20図、写真図版9～22)

6基の土坑、1基の陥し穴、73基の墓壇を検出した。遺構の検出面は何れも地上上面(Ⅲ層)である。南側調査区では縄文時代の土坑2基、時期不明4基が検出された。北側調査区では縄文時代の貯蔵穴2基と陥し穴1基があり、時期不明の土坑が1基見つかった。そして墓壇(近世から近代初頭)が73基確認されている。

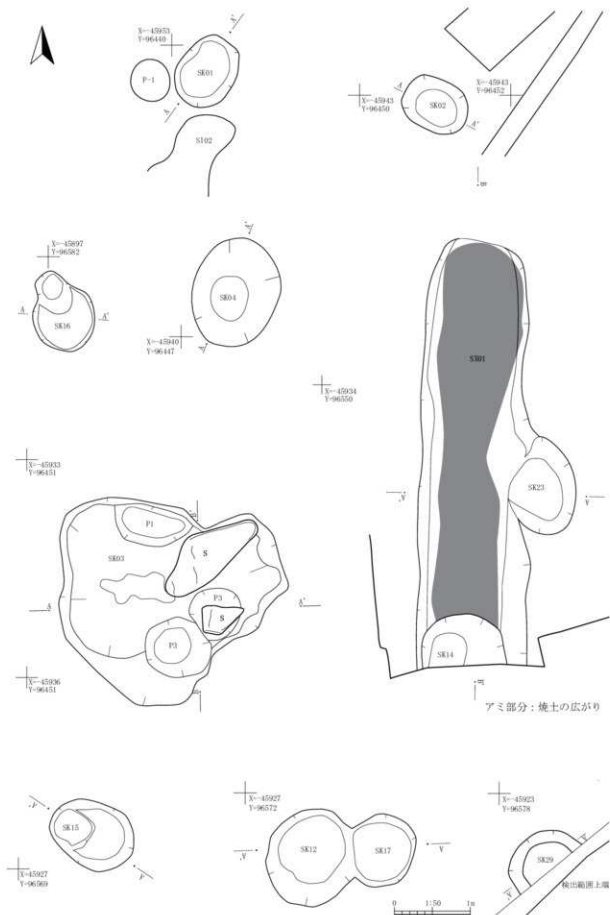
縄文時代の貯蔵穴2基は北側調査区のほぼ中央部に位置している。近くで縄文時代の竪穴住居跡は見つからなかった。居住域はより斜面を下りた調査区外の北側に広がっている可能性が高い。陥し穴は単独で見つかったり地形的にも調査区外の北側へ続く可能性も低いと考えている。

墓壇は大きく3カ所にまとまりをもって分布している。調査に入る直前まで「墓地」として利用されていた場所が2カ所と、それより少し斜面を上った場所に1カ所である。前者2カ所では事前に改葬されており、重機による掘削痕が認められたが比較的最近(近現代頃)の墓のみを改葬したらしく、古い墓壇や深く掘られていた墓壇等はそのまま残されていた。後者の墓壇群については掘乱されることなく残っていた。墓壇の平面形は円形若しくは隅丸方形となるものが殆どで長円形を呈するものはない。埋土最上部付近に径30～50cmの扁平な礫を1～5個程度置いている例も複数見られたものの、墓石は全て片付けられており、原位置を留めているものは無かった。比較的深く掘られているものが多く、最も深いもので2.35m、1.0～1.5mの深さを有するものが多い。墓壇の時期であるが副葬されていた銭貨をみると明治十年鑄造の一銭が出土しているSK48が最も新しい墓壇である。ここからは幕末の文久永寶や天保通寶も共に埋葬されていた。所謂新寛永のみが出土した墓壇としてはSK28・43・78がある。新寛永と判読不明銭が出土した墓壇にはSK24・30・34・47・49・51・57・63が、新寛永と古寛永と判読不明銭とで構成される墓壇にはSK10・11・12・22・29・33・36・50・56・60・62・71・72・73・74・77がある。古寛永のみが出土している墓壇はSK18・25の2基のみであった。判読できない銭のみが出土した墓壇はSK27・44・59である。これらのことから、この地が墓地として利用され始めたのは17世紀中葉頃からと考えられ、江戸時代後半の墓壇が最も多くみられる。そして幕末から明治前半頃までの墓壇を確認することができた。これら墓壇群の中で鉄錫を被せて埋葬しているものがSK22・29・47である。鏡や簪、紅皿など被葬者の性別を想定できるものもある。これより新しい段階の墓壇は改葬により把握できなかった。

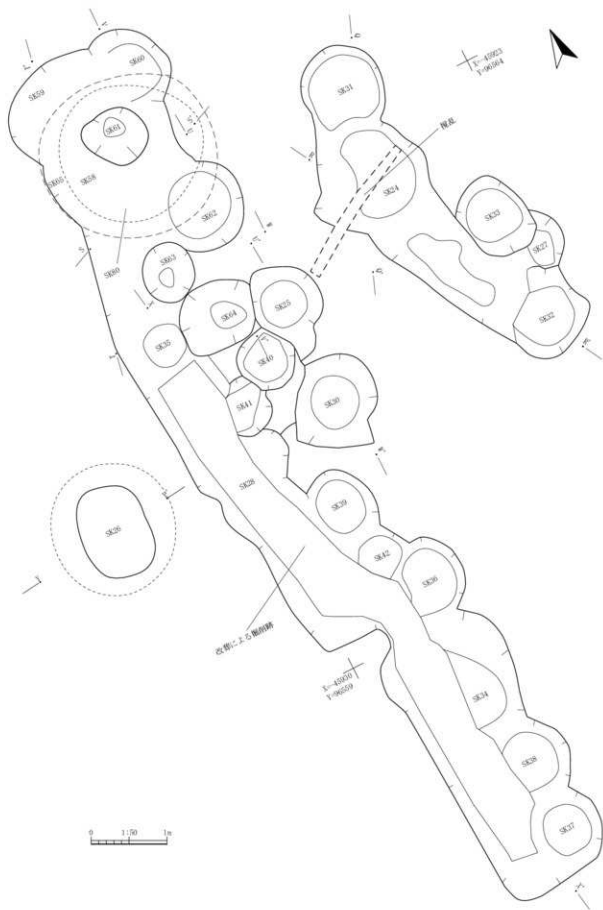
個々の土坑・陥し穴の特徴、墓壇の埋葬状況や出土遺物などについては観察表に整理している。

(4) 柱 穴(第20図)

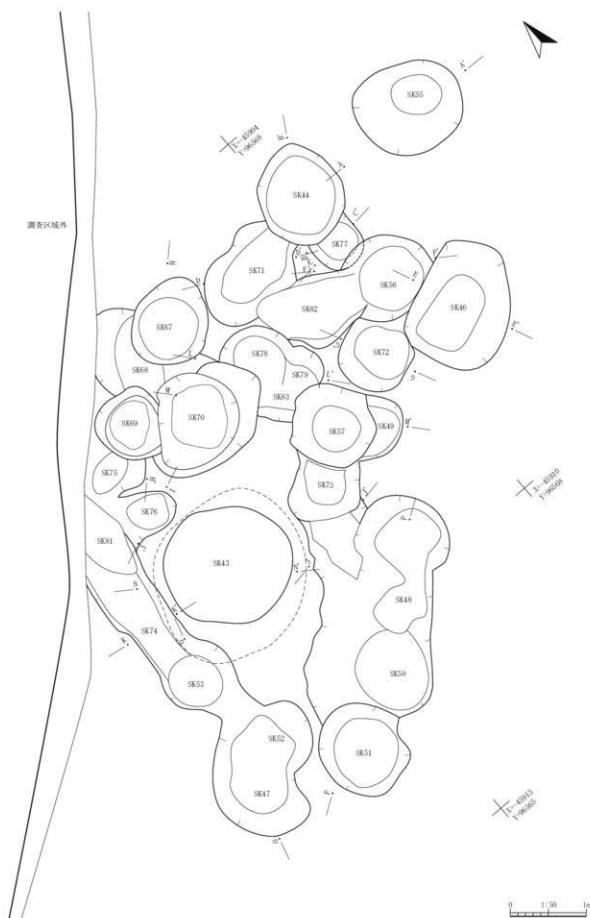
合計18個の柱穴を検出した。竪穴住居跡に伴うものとそれ以外の単独で見つかるものがあるが、規模については観察表にまとめた。



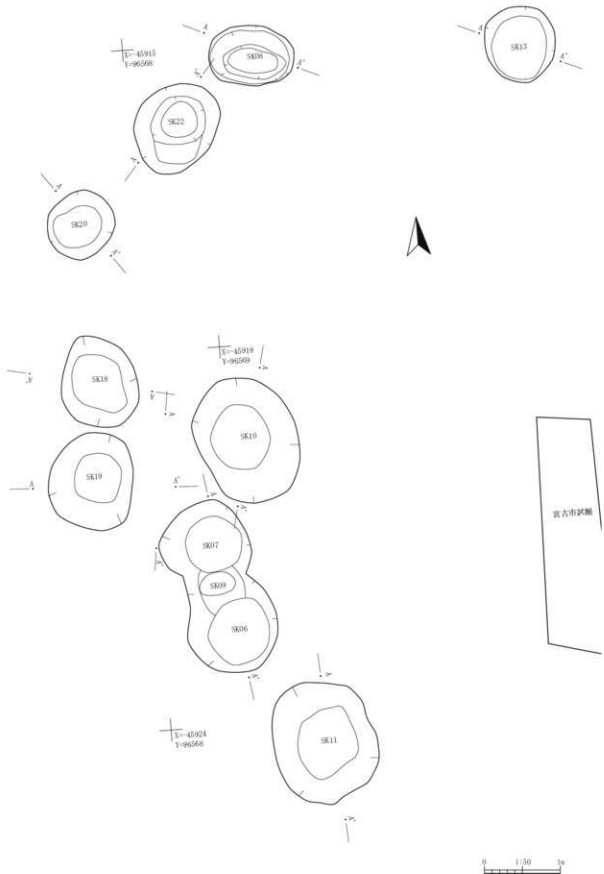
第13図 炭窯・土坑・墓坑 1



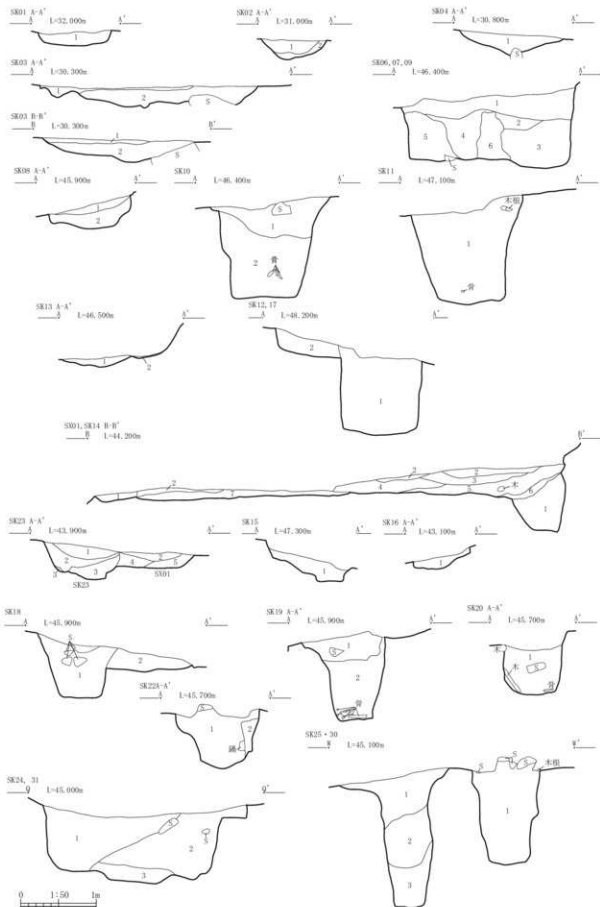
第14図 土坑・墓墳2



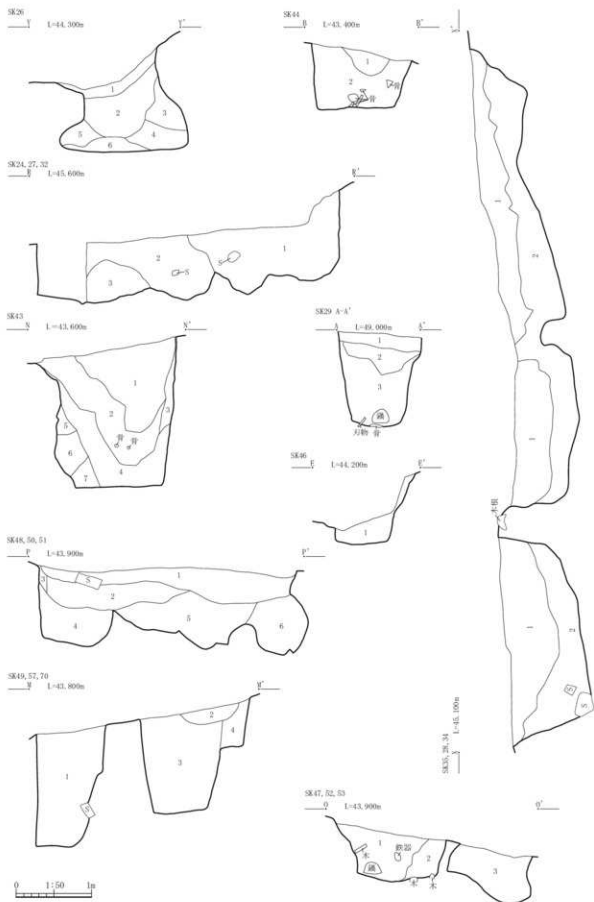
第15図 土坑・墓壇 3



第16図 土坑・墓壇4

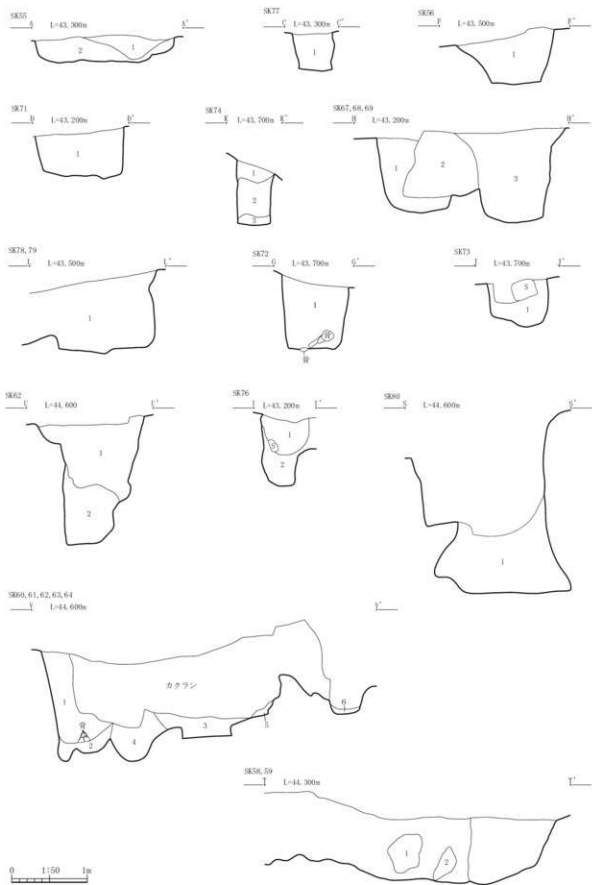


第17図 土坑・墓壇5

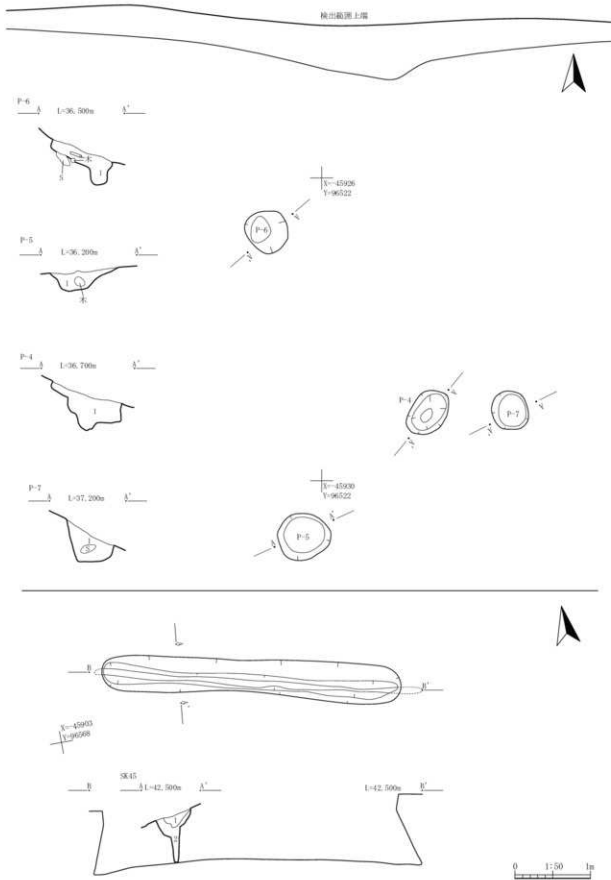


第18図 土坑・墓壇6

3 検出遺構



第19図 土坑・墓壇 7



第20図 柱穴、陥し穴

3 検出遺構

遺構名	階位	注記
S101 A-A', B-B'	1	10YR5/4に多い黄褐色土 粘性・粘り弱 表土
	2	10YR2/1黒色土 粘性弱、粘りやや有
	3	10YR2/2黒褐色土 灰粒、粘りやや有
	4	10YR3/3暗褐色土 炭粒、堆山ブロック少量含む 粘性・粘りやや有
	5	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
	6	10YR6/8明黄褐色土 褐色土少量含む 粘性・粘りやや有
	7	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
	8	10YR4/4褐色土 堆山ブロック小粒を微量、炭粒をごく微量含む 粘性・粘り弱
	9	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
	10	10YR2/2黒褐色土 粘性・粘りやや有
	11	10YR4/4褐色土 堆山ブロック微量含む 粘性・粘りやや有
	12	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土少量含む 粘性・粘りやや有
	13	10YR3/3暗褐色土 堆山ブロック小粒を多量に含む 粘性・粘りやや有
	14	10YR4/3に多い黄褐色土 黒色土ブロック多量に含む 粘性・粘りやや有
	15	10YR2/1黒色土 黄褐色土ブロック小粒を多量に含む 粘性・粘りやや有
	16	10YR4/4褐色土 黄褐色土ブロック小粒を多量に含む 粘性・粘りやや有
	17	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土微量含む 粘性・粘りやや有
S101 1号 小観測歩 a-a'	1	2.5YR4/8赤褐色土 粘性弱、粘りやや有
	2	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
S101 2号 小観測歩 b-b', c-c'	1	10YR6/8明黄褐色土 炭粒・焼土粒を少量含む 粘性やや有、粘り弱
	2	10YR3/2黒褐色土 炭粒・焼土粒を微量含む 粘性弱、粘り弱
	3	2.5YR4/8赤褐色土 黒褐色土を少量含む 粘性弱、粘っている
	4	10YR2/2黒褐色土 炭粒ごく微量含む 粘性・粘りやや有
	5	10YR2/3黒褐色土 粘性・粘りやや有
S102 A-A'	1	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土・黄褐色土ブロックを多量、炭粒を微量含む 粘性・粘りやや有(柱状)
	2	10YR4/4褐色土 黄褐色土少量含む 粘性・粘りやや有(柱居の結核)
S102B' a-a'	1	2.5YR5/8明赤褐色土 粘性弱、粘っている
	2	10YR5/8黄褐色土 粘性やや有、粘っている
	3	10YR3/4暗褐色土 粘性やや有、粘っている
	4	10YR3/3暗褐色土 炭粒を微量含む 粘性やや有、粘っている
S102B' b-b', c-c'	1	10YR3/3暗褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 炭粒少量含む 粘性・粘りやや有
	3	2.5YR4/8赤褐色土 粘性弱、粘っている
	4	10YR2/3黒褐色土 粘性・粘りやや有
	5	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
	6	10YR3/3暗褐色土 粘性やや有、粘っている
S101, SK14 B-B'	1	10YR3/4暗褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 黒褐色土ブロック少量含む 粘性弱、粘り弱
	3	10YR2/3黒褐色土 粘性弱、粘りやや有
	4	10YR6/8明黄褐色土 褐色土ブロック少量含む 粘性・粘りやや有
	5	10YR2/1黒色土 粘性・粘りやや有 炭粒を多く含む
S101 A-A'	1	10YR4/4褐色土 黄褐色土・黒褐色土ブロックを多量に含む 粘性やや有 粘り弱 人形塚横 新らしいと思う
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック多量に含む 粘性やや有、粘り弱
	3	10YR3/4暗褐色土 黄褐色土少量含む 粘性・粘りやや有
S101, SK07 A-A'	1	10YR2/1黒色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック、黒色土を不規則に含む 粘性・粘りやや有
SK03 A-A', B-B'	1	10YR3/2黒褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック小粒を多量に含む 粘性やや有、粘り弱
SK04 A-A'	1	10YR6/8明黄褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土ブロック大粒を少量含む 粘性・粘りやや有
SK06, SK07 A-A'	1	10YR6/8明黄褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR3/4暗褐色土 堆山ブロック小粒を多量に含む 粘性・粘りやや有
	3	10YR3/2黒褐色土 人骨有 粘性・粘りやや有
	4	10YR3/2黒褐色土 人骨有 粘性・粘りやや有

遺構名	階位	注記
SK08 A-A'	1	10YR3/4暗褐色土 炭粒微量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 褐色土ブロックを微量含む 粘性・粘りやや有 人骨、土器と共存
SK09 A-A'	1	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土ブロック微量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR3/2黒褐色土 堆山ブロック少量含む 粘性・粘りやや有 墓であらう
SK10 A-A'	1	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック微量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR7/8黄褐色土 黒褐色土ブロック少量 褐色土ブロック少量含む 粘性・粘りやや有 注記あり
SK11 A-A'	1	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック小粒を多量に含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック小粒を少量含む 粘性・粘りやや有
SK12, SK17 A-A'	1	10YR4/4褐色土 堆山ブロック小粒を少量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR3/2黒褐色土 堆山ブロック小粒を少量含む 粘性・粘りやや有
SK13 A-A'	1	10YR3/2黒褐色土 堆山ブロック小粒を少量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土ブロックを微量含む 粘性・粘りやや有
SK14 B-B'	1	10YR4/4褐色土 黄褐色土ブロック少量、黒褐色土ブロック少量含む 粘性・粘りやや有
SK15 A-A'	1	10YR3/3暗褐色土 堆山ブロック、黒褐色土ブロックを少量含む 粘性・粘りやや有
SK16 A-A'	1	注記なし
SK18 A-A'	1	10YR2/3黒褐色土 堆山ブロックを多量に含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR3/2黒褐色土 粘性・粘りやや有
SK19 A-A'	1	10YR3/2黒褐色土 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 黒褐色土ブロック多量に含む 粘性・粘りやや有
SK20 A-A'	1	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック少量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック少量含む 粘性やや有、粘り弱
SK22 A-A'	1	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土を微量含む 粘性やや有、粘り弱
	2	10YR2/2黒褐色土 堆山ブロック小粒をごく微量含む 粘性・粘りやや有
SK23 A-A'	1	10YR4/4褐色土 炭粒(小)を微量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 褐色土ブロック少量、炭粒ごく微量含む 粘性・粘りやや有(人骨)
	3	10YR6/8明黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む 粘性やや有、粘り弱
SK24, SK31 Q-Q'	1	10YR6/8明黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR3/4暗褐色土 堆山ブロックや草木根を少量含む 粘性・粘りやや有
	3	10YR3/4暗褐色土 粘性・粘りやや有
SK30 W-W'	1	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土ブロック多量に含む 粘性やや有、粘り弱
	2	10YR4/4褐色土 草木根多い 粘性・粘りやや有
SK26 Y-Y'	1	10YR5/4に多い黄褐色土 黄褐色土小粒を微量含む 粘性・粘りやや有
	2	10YR6/8明黄褐色土 粘性・粘りやや有
	3	10YR6/8明黄褐色土 褐色土を少量含む 粘性・粘りやや有
	4	10YR7/8黄褐色土 褐色土を少量含む 粘性・粘りやや有
	5	10YR5/4に多い黄褐色土 黄褐色土を少量含む 粘性・粘りやや有
SK24, SK27, SK32 R-R'	1	10YR6/8明黄褐色土 草木根葉を多量に含む 粘性やや有、粘り弱 墓理位上
	2	10YR6/8明黄褐色土 草木根葉を微量含む 粘性やや有、粘り弱
	3	10YR4/4褐色土 粘性・粘りやや有
SK28, SK34, SK35 X-X'	1	10YR3/4暗褐色土 草根葉を多量に含む 粘性やや有、粘り弱
	2	10YR6/8明黄褐色土 暗褐色土ブロック少量含む 人骨片 炭も少量出土 粘性やや有、粘り弱
SK29 A-A'	1	10YR3/1黒褐色土 表土、草木の根多い 粘性弱、粘りやや有
	2	10YR3/3暗褐色土 粘性・粘りやや有
	3	10YR3/3暗褐色土 堆山ブロック多量含む 粘性・粘りやや有
SK25 W-W'	1	10YR3/3暗褐色土 堆山ブロック少量含む 粘性やや有、粘り弱
	2	10YR6/8明黄褐色土 褐色土ブロック少量含む 粘性やや有、粘り弱
	3	10YR6/8明黄褐色土 粘性やや有、粘りやや有

4 出土遺物

(1) 縄文土器(第21図、写真図版24)

多くはS102から出土したもので縄文時代中期後半のものである。2は口縁部が大少の波状となり、縦長の長円形を基調とした沈線による文様が連続する。3は口縁部に渦文が横位に付く。8・9も同一個体である。2本の粘土紐を1単位として円弧文を成している。同様の文様構成となるものに10・11・12がある。13は屋外に埋設されていた可能性があるが、水道管敷設により攪乱を受けていた。6はミニチュア土器の底部である。個々の特徴については観察表に整理している。

(2) 石器(第24図、写真図版24)

石器類は6点出土し、5点を掲載した。計測値や石質等は観察表に記載している。何れも縄文時代の石器である。81は石棒の未完成品であろうか。

(3) 土師器(第25図、写真図版24)

S101から381g出土した中から3点掲載した。非ロクロで成形された甕である。短くてあまり外反しない口縁部、胴部は縦方向にヘラナデ、内面は横方向にヘラナデを施している。

(4) 陶磁器(第22～24図、写真図版25)

13点を掲載した。11点は墓壇に副葬されていたもの。2点は遺構外出土であるが、墓に備えられていた可能性が高い。

22の陶器甕と23の片口鉢・32の陶器碗は19世紀代の東北在地窯の製品と考えているが産地までは不明である。34の陶器碗は瀬戸美濃産の腰鉢碗、染付碗や小瓶は肥前産であろう。49は肥前系の染付碗かもしれない。破片の資料については墓内で割れたのではなく、埋葬時に破片を入れたものである。

(5) 銭貨(第25～37図、写真図版28～52)

墓壇を中心に約500枚の銭貨が出土している(遺構外出土は2枚)。その中には複数の銭が互いに密着しているものもや腐食が進み、細かく破砕している個体も多かったため全体数は数えられなかった。互いに密着しているものを1枚1枚剥がして掲載したが、残りの悪いものは破砕してしまうため、今回は剥がさずに掲載しているものも多い。銭名が読めない個体等は不掲載とした。

出土した銭の殆どが寛永通寶であった。整理期間が限られていたため寛永通寶は所謂「古寛永・新寛永」に大別しただけで、細分はしなかった。新寛永のほうが圧倒的に多く、背文を持つものもその中で半数はあった。銭銘が摩耗や腐食して読めない個体もかなりの数にのぼる。多くは寛永通寶とみられるが、中には鋳銭が含まれている可能性も高い。

江戸時代後半に鑄造された「天保通寶」「文久永寶」も出土しているが、「一銭」「二銭」硬貨と共に出土している。既に貨幣価値の無くなった段階で埋葬されたものといえるだろう。

中世の渡来銭も2枚程確認された。個々の銭貨の特徴については観察表に記載している。

(6) 銅製品(第22～24図、写真図版25)

何れも墓壇から出土したもので図化できるものは全て掲載している。銭貨を除く銅製品の中では煙

管が最も多く、次いで簪となる。

煙管は雁首部分と吸口部分とを合わせて15点出土した。15は袋に入れられて副葬されていたようで雁首部分に布が付着している。布が付着しているものは他に57がある。SK11から出土した煙管は火皿のつけ根から羅宇と接合する部分までが他よりも長い。68は他の煙管よりも径が太い。羅宇は殆ど残っていないが、材質は一般的な竹のようである

簪は5点出土している。何れも耳かきだけの細長い簪とみられる。但し耳かきは既に実用的なものではなくなっているようだ。51・63は残りが良く長さは19cm弱ある。51には布が付着していた。

柄鏡は1点のみ出土した。裏面には竹が描かれている。文字は判読できなかった。

その他の銅製品としてはSK33からは毛抜きが1点出土した。31は箆筒などの引手金具である。30も同じ箆筒などの金具の一部だったとみられる。40・71～74は何かの裝飾品であったようだが詳細は不明である。

(7) 鉄製品(第23・24図、写真図版26)

何れも墓壇に副葬されていたものである。鉄製品の中で最も多いものは鉄釘で棺に使われたものであろう。但し今回は写真掲載にして図化はしていない。次いで多いのは刃物である。他に鉄鍋、金具等が出土した。

刃物類としては刀子が9点出土している。最も刃の長いもので13.0cm、短いもので7.0cmのものがある。柄の木質部分が若干残っているものも複数ある。29や61は包まれていた布が一部残っていた。

鎌は1点のみの出土であった。柄と刃は直角ではなくやや開いている。歯は弧状とならずに直線である。

鉄鍋は3点出土した。何れも遺体頭部に被せられていたとみられ、底を上にした状態で出土している。内耳鉄鍋ではない。容量は皆近く、脚は3本である。50には吊手部分も残っていた。

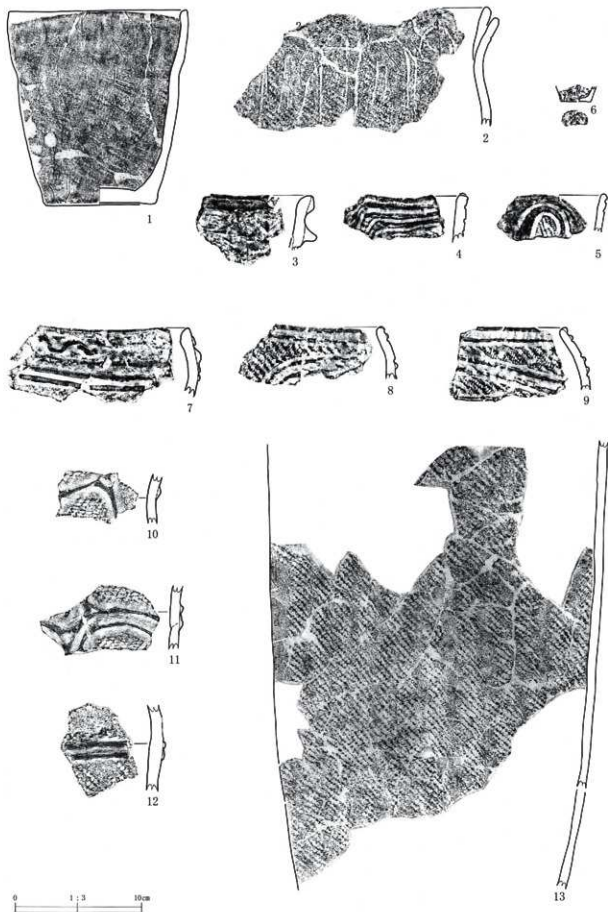
48は引出金具、21・28・47は木箱或いは箆筒の鍵部分のようである。53・54は鈴、52は用途不明の製品である。

(8) 羽口・鉄滓(第25図、写真図版26)

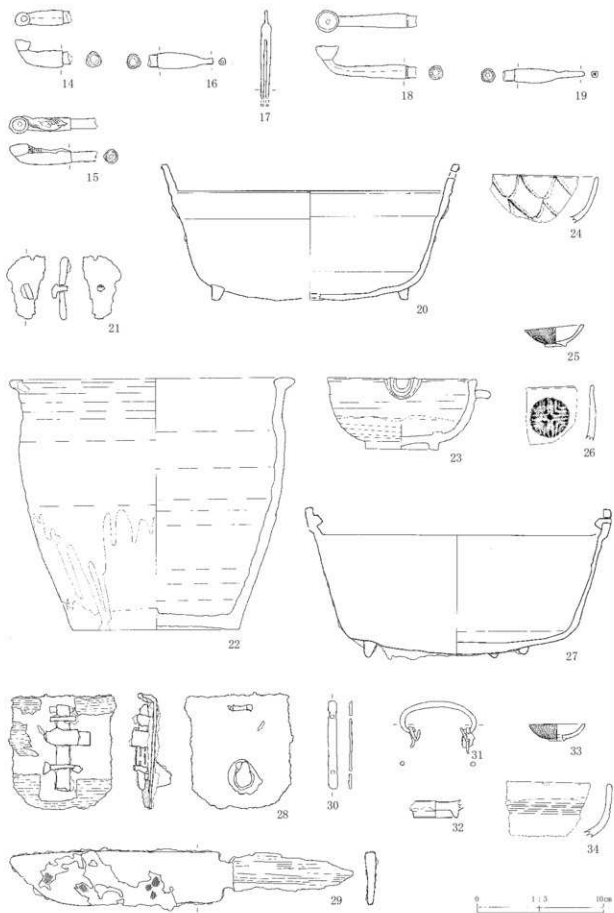
羽口(85)は1号小鍛冶炉のすぐ東側にあった。底に鉄滓が付着した状態となっている。520は鉄滓でSIO2中央付近にあるP5から出土した。

遺構名	層位	注記
SK43 N-N'	1	10YR2/2黒褐色土 明黄褐色土を少量含む 粘性弱、細りやや有
	2	10YR5/4にぶい黄褐色土 粘性やや有、締っている
	3	10YR5にぶい黄褐色土 粘性やや有、締っている
	4	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土少量混じる 粘性やや有、締っている
	5	10YR6/6明黄褐色土 粘性・細りやや有
	6	10YR4/6褐色土 粘性・細りやや有
	7	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土少量含む 粘性・細りやや有
SK44 D-B'	1	10YR6/6明黄褐色土 粘性・細りやや有
	2	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土少量混じる 粘性・細りやや有(人為)
SK45 A-A'	1	10YR2/2黒褐色土 黄褐色土少量含む 粘性・細りやや有
	2	10YR3/3暗褐色土 褐色土と黄褐色土を少量含む 粘性・細りやや有
SK46 E-E'	1	10YR2/2黒褐色土 埋山ブロックを不規則に多量に含む 粘性・細りやや有(人為) (層ではないようだ) 古くもないようだ

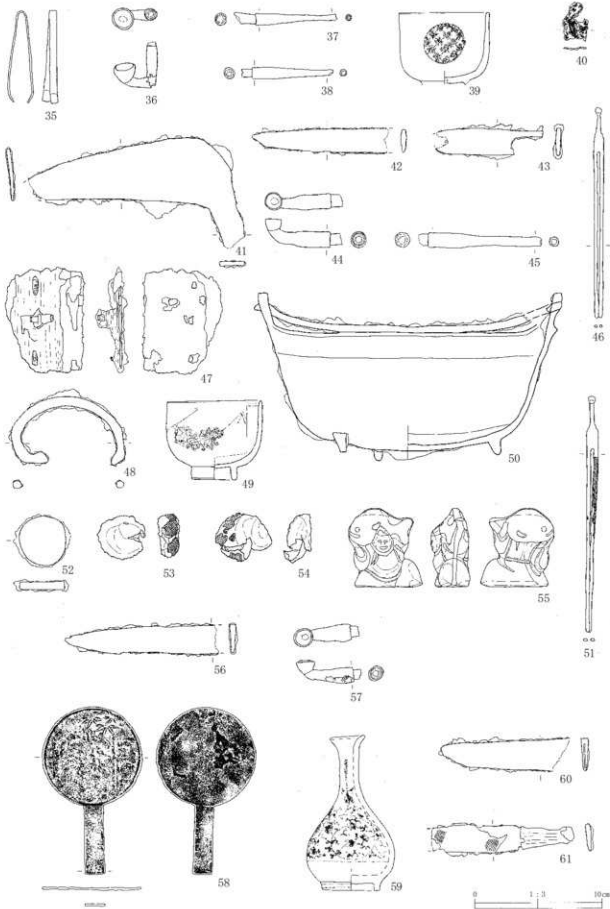
遺構名	層位	注記
SK47, SK52, SK53 O-O'	1	10YR3/3暗褐色土 本層多い 壁近くに明黄褐色土少量あり 粘性・細り弱
	2	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土、褐色土を多量に含む 粘性やや有、細り弱
	3	10YR2/2黒褐色土 粘性・細り弱 改善後の埋戻し
SK48, SK50, SK51 P-P'	1	10YR4/4褐色土 ビニール、破いた鉄板片などを含む 改善の上 粘性やや有、細り有
	2	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土少量混じる 粘性・細りやや有
	3	10YR4/3にぶい黄褐色土 粘性やや有、細り弱
	4	10YR1/6褐色土 埋山ブロック少量含む 粘性・細りやや有
	5	10YR2/3黒褐色土 埋山ブロックを大量に含む 粘性・細りやや有
	6	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土少量含む 粘性・細りやや有



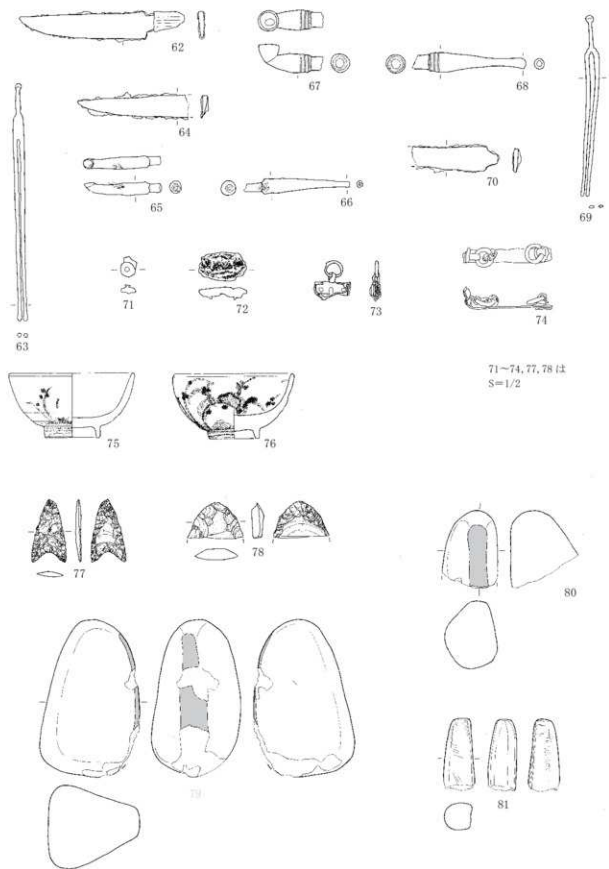
第21図 出土遺物 1



第22圖 出土遺物 2



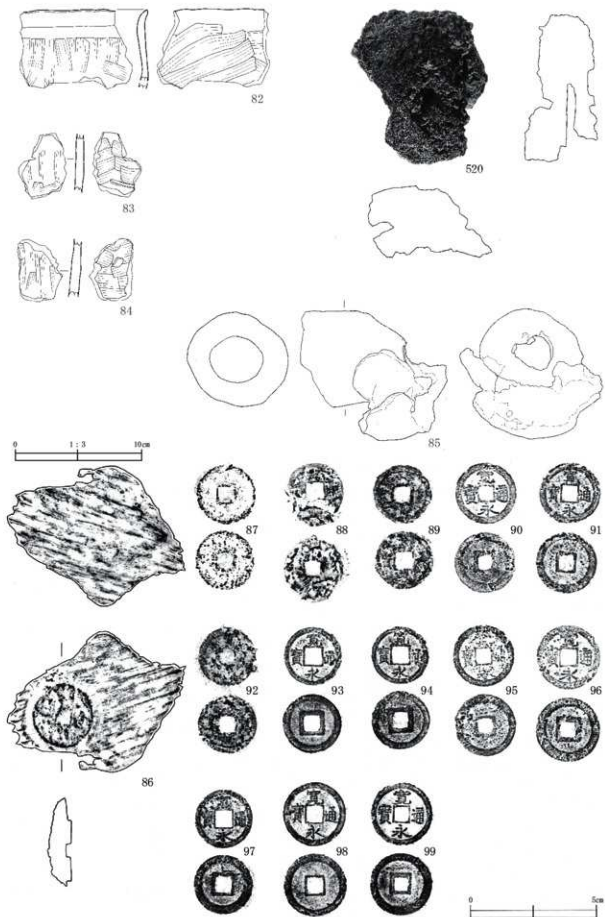
第23図 出土遺物 3



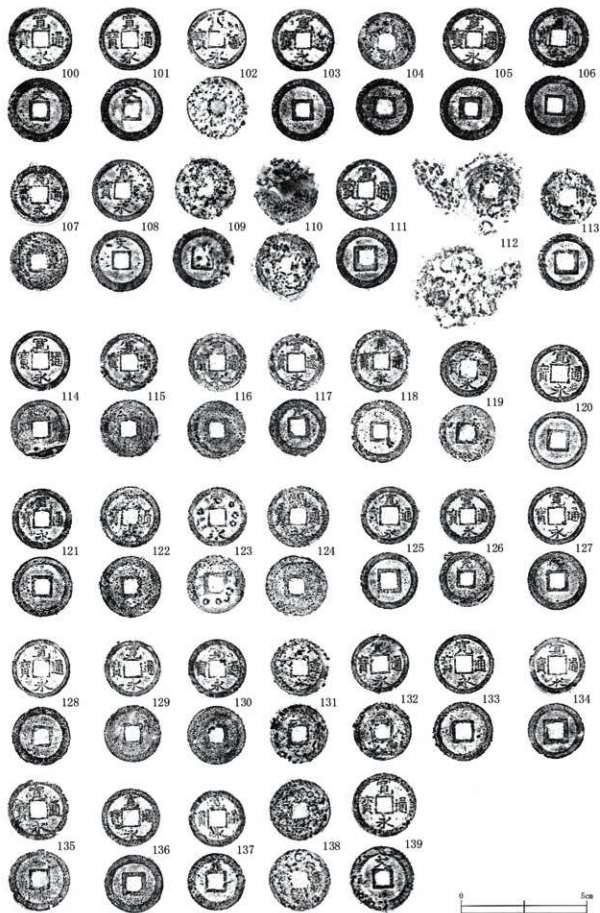
71~74, 77, 78 は
S=1/2



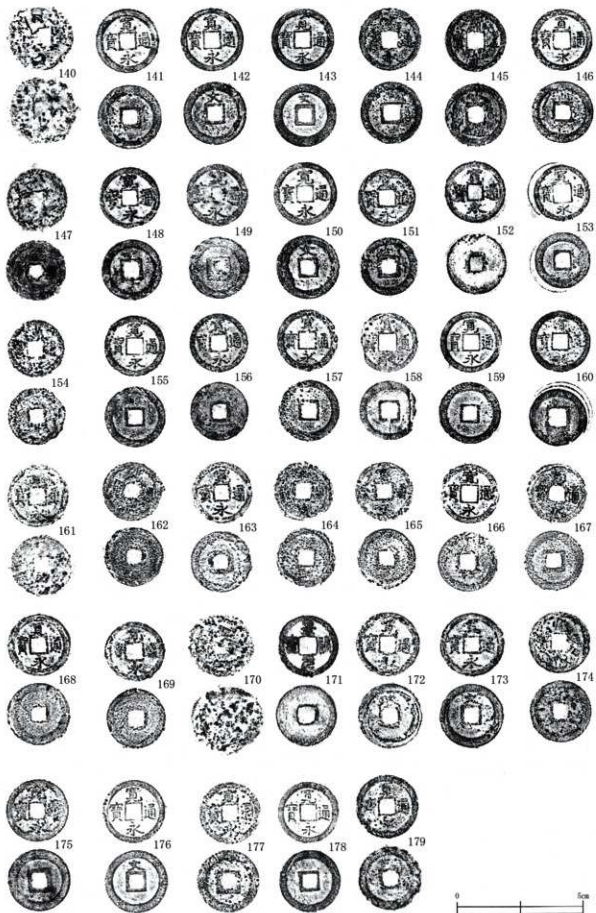
第24図 出土遺物 4



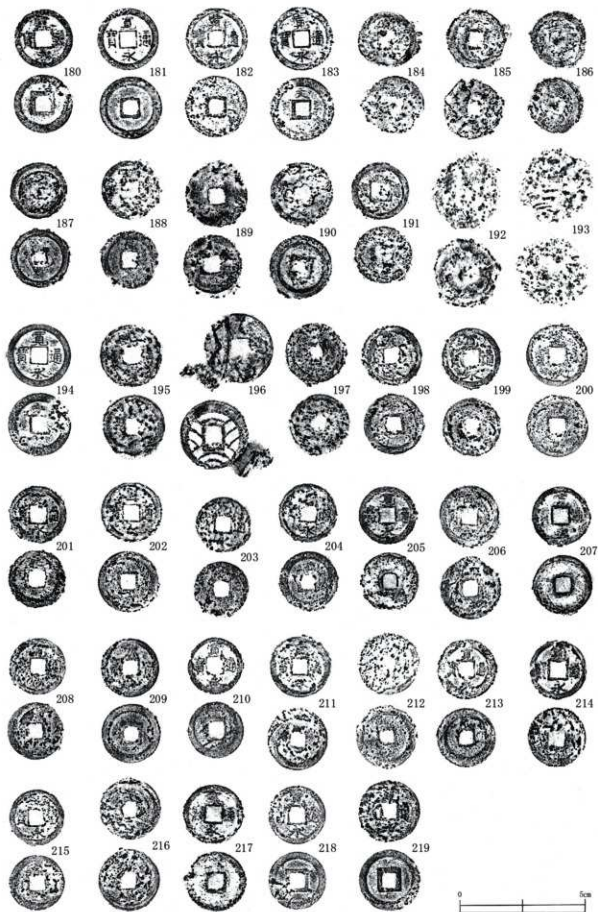
第25図 出土遺物 5



第26圖 出土遺物 6



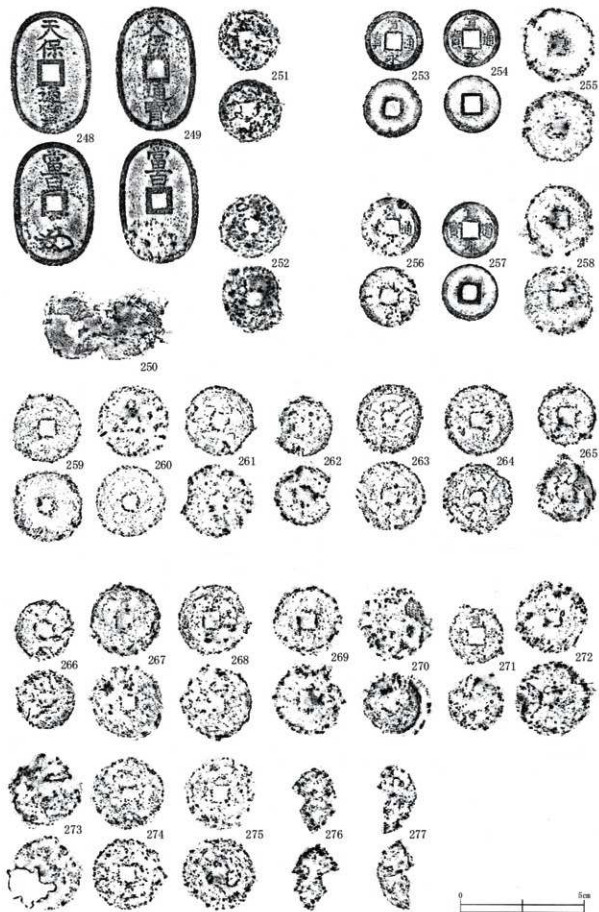
第27図 出土遺物 7



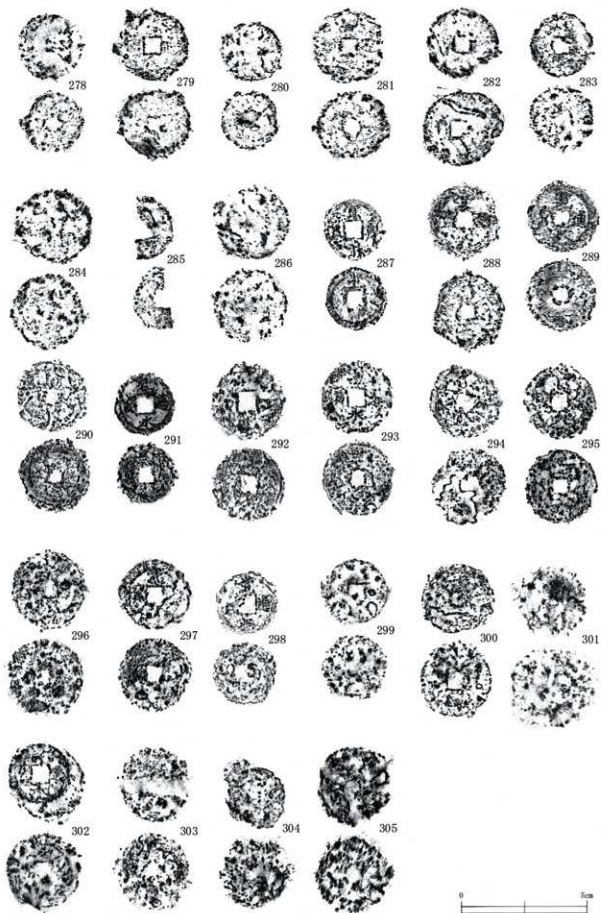
第28圖 出土遺物 8



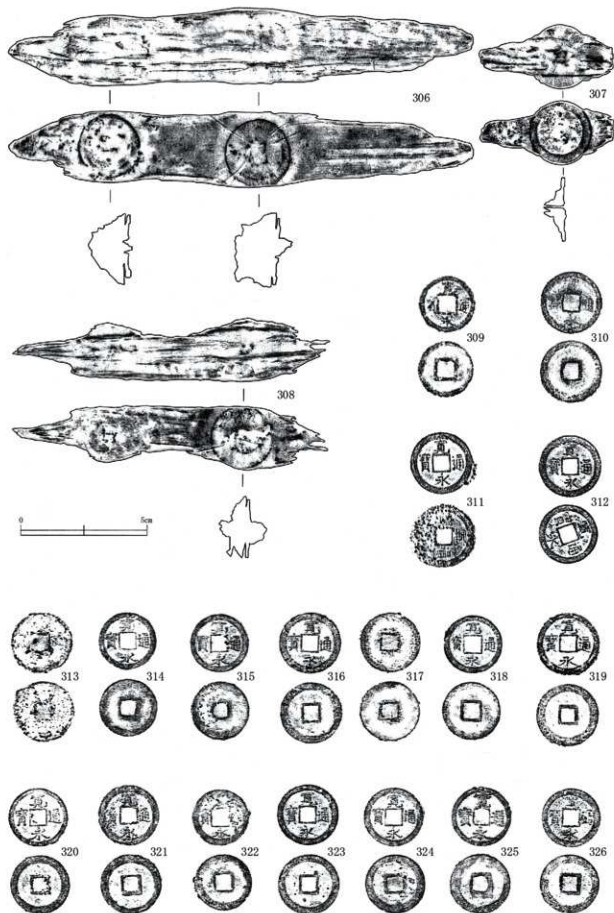
第29図 出土遺物 9



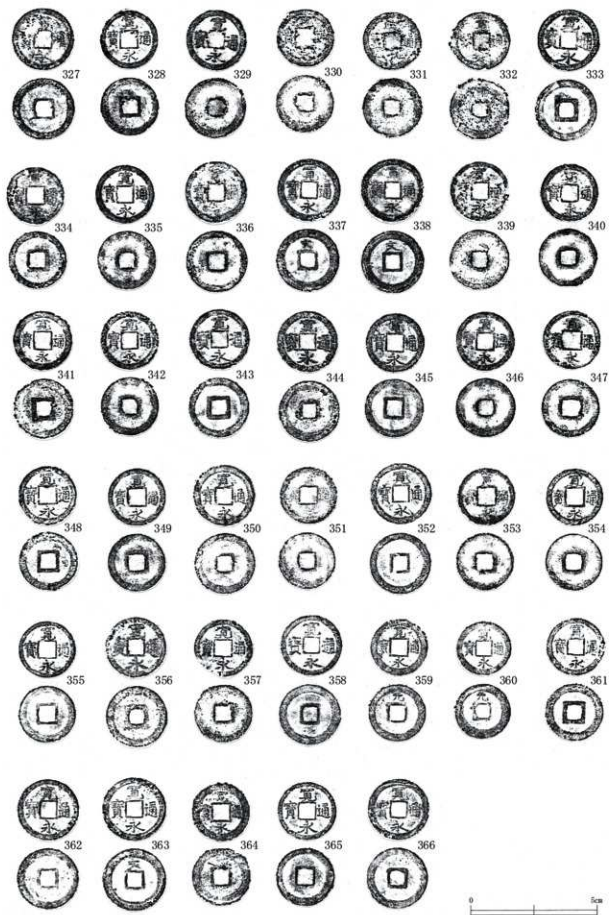
第30図 出土遺物10



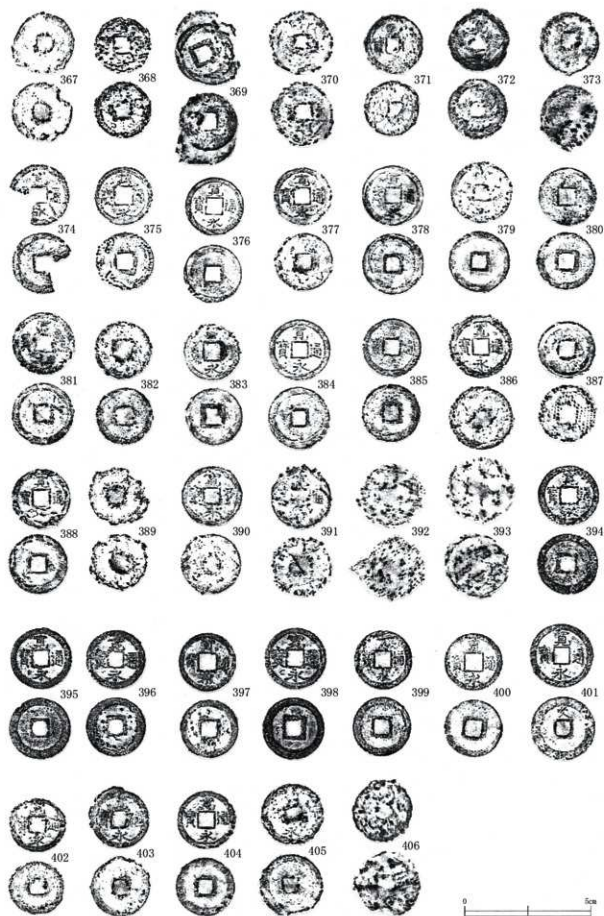
第31圖 出土遺物11



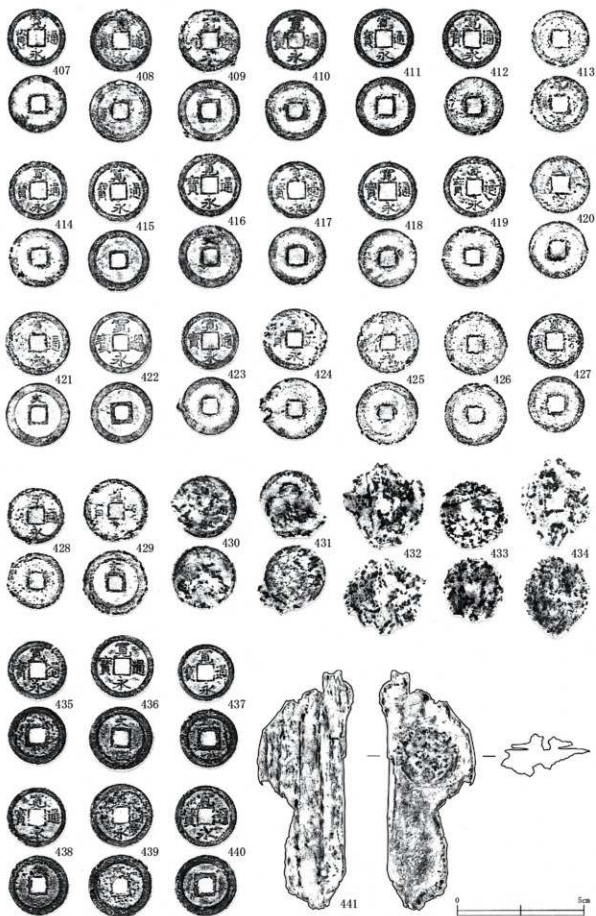
第32圖 出土遺物12



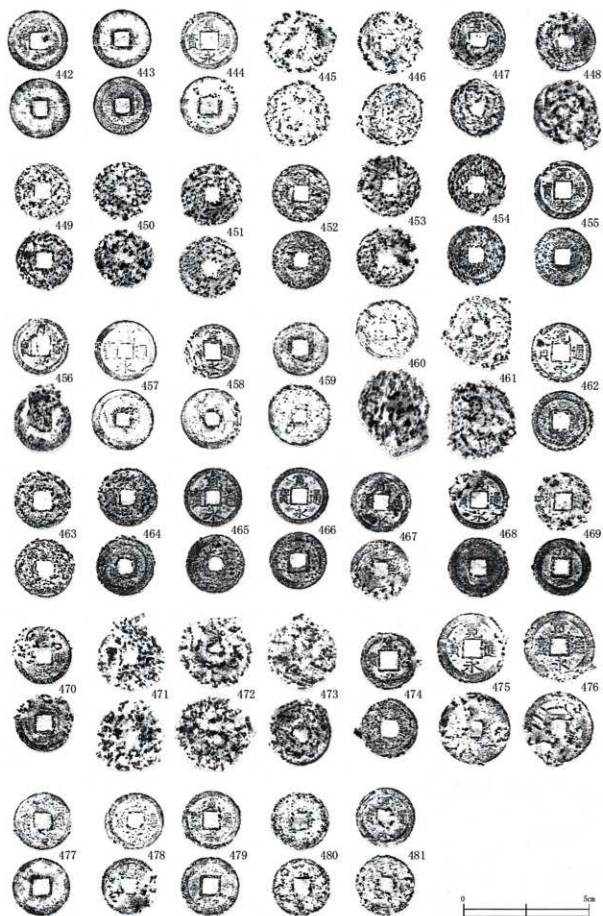
第33図 出土遺物13



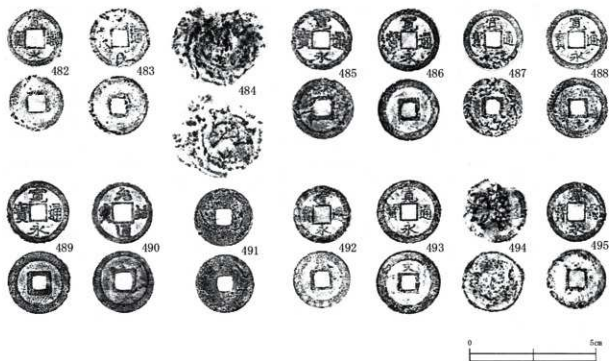
第34圖 出土遺物14



第35図 出土遺物15



第36圖 出土遺物16



第37図 出土遺物17

遺構名	層位	注記
SK49, SK57, SK70 M-W	1	10YR5/4にふい黄褐色土 地山ブロック小粒を多量に含む。粘性・細りやや有
	2	10YR6/6明黄褐色土 暗褐色土ブロック中粒を少量含む。粘性・細りやや有 断面土
	3	10YR6/6明黄褐色土 にふい黄褐色土少量含む。粘性・細りやや有
	4	10YR5/6黄褐色土 にふい黄褐色土を少量含む。粘性・細りやや有
SK55 A-A'	1	10YR2/3黒褐色土 地山ブロックを多量に含む。粘性・細りやや有
	2	10YR3/6黄褐色土 粘性やや有、締っている
SK56 F-F'	1	10YR6/6明黄褐色土 黒褐色土・褐色土ブロックを不規則に少量含む。粘性やや有、細りやや有
	1	10YR3/4暗褐色土 地山ブロック小粒を多量に含む。粘性・細りやや有
SK58, SK59 T-T'	1	10YR3/4暗褐色土 地山ブロック小粒を少量含む。粘性・細りやや有
	2	10YR4/3にふい黄褐色土 中～下位には地山ブロックを少量含む。粘性・細りやや有
SK60, SK61, SK62, SK63, SK64 Y-Y'	2	10YR5/6黄褐色土からにふい黄褐色土 粘性・細りやや有
	3	10YR4/4褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性・細りやや有
	4	10YR4/3にふい黄褐色土 地山ブロック多量に含む。粘性・細りやや有
SK62 U-U'	1	10YR4/4褐色土 粘性・細りやや有
	2	10YR4/6褐色土 10YR6/8明黄褐色土をキヤ状に10%含む。細り有
	1	10YR4/3にふい黄褐色土 粘性中、細り弱
	2	10YR4/4褐色土 粘性中、細り弱 φ1～2mmの泥を1%含む
	3	10YR4/4褐色土 粘性中、細り弱 黒色土をキヤ状に含む

遺構名	層位	注記
SK71 D-D'	1	10YR4/4褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・細りやや有 人骨の残り見かった
	1	10YR5/3にふい黄褐色土 地山ブロック小粒を多量に含む。粘性・細りやや有
SK72 G-G'	1	10YR4/6褐色土 細り中
	1	10YR3/2黒褐色土 木堀多い。粘性弱、細り弱
SK73 J-J'	1	10YR6/6明黄褐色土 褐色土を少量含む。粘性やや有、締っている
	2	10YR4/4褐色土 地山ブロック少量含む。粘性・細りやや有
SK74 K-K'	1	10YR3/2暗褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土 (1:1) 細り中。粘性中
	2	10YR4/4褐色土 粘性中、細り強
SK76 I-I'	1	10YR4/3にふい黄褐色土 地山ブロック中粒を多量に含む。粘性・細りやや有 (SK56, SK44と重なる。SK77が古いようだ)
	3	10YR4/3にふい黄褐色土 地山ブロック中粒を多量に含む。粘性・細りやや有 (SK56, SK44と重なる。SK77が古いようだ)
SK77 C-C'	1	10YR4/4褐色土 地山ブロック多量含む。粘性・細り弱
	1	10YR4/4褐色土及び黄褐色土。にふい黄褐色土が交互に堆積 (流れ込んだように)。粘性・細りやや有 縄文、フラスコ、遺物なし
SK80 S-S'	1	10YR4/4褐色土 粘性・細りやや有 (柱穴)
	1	10YR4/3にふい黄褐色土 粘性・細りやや有 (柱穴)
P4 A-A'	1	10YR4/3にふい黄褐色土 粘性・細りやや有 (柱穴)
	1	10YR4/2灰黄褐色土 粘性・細りやや有
P7 A-A'	1	10YR2/3黒褐色土 表土。粘性弱、細り弱
	II	10YR4/4褐色土 粘性・細りやや有 部分的に厚い所と薄い所がある
基本の層 A-A'	IIIa	10YR5/6黄褐色土 粘性やや有、締っている 遺構検出面
	IVb	10YR6/6明黄褐色土 粘性やや有、締っている

第2表 土坑・墓墳類観察表

計測値の単位: cm

遺構名	位置	規模 長軸・短軸・深さ	形状	埋土	出土遺物	時期	その他
SK01	南	98/78/21	長円形	地山ブロックを多量に含む人為堆積		古代より新しいか	
SK02	南	90/68/29	長円形	人為堆積 地山ブロックと黒褐色土と暗褐色土		縄文時代か	
SK03	南	312/284/32	不整形円形	自然堆積 黒色土	磨石1点	縄文時代か	
SK04	南	142/108/29	長円形	黒・褐色土からなる自然堆積		不明	
SK05	欠番						
SK06	北	127/115/108	円形	人為堆積	煙管雁首2・吸口1点、鉄釘1点	近世	墓墳
SK07	北	112/108/82	円形	人為堆積 底面近くに竈がまともであり、その下から人骨片	板片に付着した状態の銭が約6枚、簀2片、鉄釘5点	近世	墓墳
SK08	北			人為堆積 炭粒含む		近世	墓墳
SK09	北	85/~82	不明	人為堆積	鉄釘1点(残存状態悪い)	近世	墓墳
SK10	北	168/128/135	長円形	人為堆積 検出面に竈2個を置く 底面中央に潰れた状態で人骨片	銭貨6枚、鉄釘2点	近世	墓墳
SK11	北	158/137/152	不整形円形	人為堆積 検出面に複数竈	銭貨2点、煙管雁首1・吸口1点、鉄片1点	近世	墓墳
SK12	北	132/120/120	円形	人為堆積	銭貨5点。	近世	墓墳
SK13	北	103/100/13	円形	人為堆積		近世	土坑か
SK14	北	108/68/40	円形	人為堆積 炭室跡より新しい		近世	墓墳
SK15	北	114/88/52	長円形	人為堆積		近世	土坑か
SK16	北	134/110/10	不整形	自然堆積		近世	墓墳
SK17	北	100/90/35	円形	人為堆積		近世	墓墳
SK18	北	130/103/87	不整形	人為堆積 検出面に竈 底面中央付近に頭骨片	銭貨約10枚(互いに密着した状態)	江戸時代前期か	墓墳
SK19	北	128/110/121	円形	人為堆積 理土上位に竈 底面に崩壊された人骨		近世	墓墳
SK20	北	94/93/64	円形	人為堆積 理土中位に竈 底面に崩壊された人骨		近世	墓墳
SK21	北	SK22に変更				近世	墓墳
SK22	北	121/110/90	円形	人為堆積 検出面に30×25cm程の角竈を置くやや北側から鉄鍋が出土した	銭貨4枚、鉄鍋1点、鉄釘2点	近世	墓墳
SK23	北	100/100/53	不整形円形	人為堆積 炭室跡より新しい		近世	墓墳
SK24	北	142/~90	不整形	人為堆積 底面付近から陶器	銭貨4枚(一部には布や薄い鉄板片が付着している)、鉄釘5点、不明鉄製品1点	近世	墓墳
SK25	北	110/93/187	不整形円形	人為堆積 頭骨の傍から陶器片口鉢が完形で出土	銭貨1+互いに密着している3枚、薄い鉄板1点、陶器片口鉢1点	江戸時代前期か	墓墳
SK26	北	129/90/147	円形	自然堆積 褐色土や明黄褐色土・黄褐色土などが交互に流れ込む		縄文時代	貯蔵穴
SK27	北	85/50/140	不整形	人為堆積	銭貨1枚、染付碗1点、鉄釘1点	近世	墓墳
SK28	北	112/79/	長円形	人為堆積	銭貨2枚、染付碗1点、紅皿1点	江戸時代後期か	墓墳
SK29	北	106/52/125	円形	人為堆積 検出面に複数の角竈 鉄鍋を被った状態で見つかる 副葬品は木箱に入れられていた可能性がある	銭貨約22枚、陶器碗1点、刃物1点、鉄製品(軍曹の一部か)、銅製引出部1点、鉄鍋1点、鉄板1片、木板1片、鉄釘約22点、骨片1	近世	墓墳
SK30	北	125/107/138	円形	人為堆積	銭貨3枚、陶器碗1点、紅皿1点、鉄製薄板1片、鉄釘1点	近世	墓墳
SK31	北	108/100/91	不整形円形	人為堆積		近世	墓墳

遺構名	位置	規模 長軸・短軸・深さ	形状	埋土	出土遺物	時期	その他
SK32	北	103/82/118	不整形	人為堆積		近世	墓塚
SK33	北	110/86/130	不整形	人為堆積	銭貨12枚、銅製毛抜1点、鉄釘9点、骨片1	近世	墓塚
SK34	北	80/-/85	不整形	人為堆積	銭貨約26枚(互いに密着)、煙管雁首1・吸口2点、染付碗1点、釘1点	近世	墓塚
SK35	北	-/-/112	不明	人為堆積	銭貨1枚、黒色の布1枚(銭貨を包んでいた)	近世	墓塚
SK36	北		円形	人為堆積	銭貨10枚	近世	墓塚
SK37	北		円形	人為堆積		近世	墓塚
SK38	北	82/-/70	円形	人為堆積		近世	墓塚
SK39	北	104/87/75	円形	人為堆積		近世	墓塚
SK40	北	80/72/69	不整形	人為堆積		近世	墓塚
SK41	北	78/60/88	不整形	人為堆積	鎌1点	近世	墓塚
SK42	北	58/-/82	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK43	北	170/155/200	円形	人為堆積 非常に大きくて深い 縄文時代の貯蔵穴かと思っていたが骨や銭が出土したため墓塚と判断した	銭貨3枚、刀子1点、鉄釘2点	江戸時代後期か	墓塚
SK44	北	120/117/85	不整形	人為堆積 体を小さく折り曲げた状態で出土し。	銭貨約25枚(互いに密着した状態)、煙管雁首1・吸口1点、髷1点	近世	墓塚
SK45	北		長円形	自然堆積		縄文時代	陥し穴
SK46	北	165/134/97		人為堆積		近世	墓塚
SK47	北	142/88/76	不整形	人為堆積 鍋を抜いた状態で出土 副葬品は小形の草笥のようなものに入られていた可能性がある。	銭貨5枚(板に付着)、染付碗1点、鉄鍋1点、草笥の引手、草笥?1点	近世	墓塚
SK48	北	80/80/107	不整形	人為堆積 埋土上位に角礫を置く	銭貨54枚、文久水寶2枚、近代銭貨4枚、鉄銭約10枚(密着している)、髷1点、鉄釘4点	近代	墓塚
SK49	北	78/48/62	不明	人為堆積	銭貨3枚、鉄銭約20枚、土人形1点、鈴?2点、鉄釘約40点	近世	墓塚
SK50	北	105/102/82	不明	人為堆積	銭貨約70枚(互いに密着した状態)、鉄釘約60点、薄鉄板1片	近世	墓塚
SK51	北	125/117/103	不整形	人為堆積	銭貨6枚	近世	墓塚
SK51	北	120/88/108	不整形	人為堆積	銭貨約23枚(密着している)、鉄釘17点	近世	墓塚
SK52	北	120/88/55	不整形	人為堆積		近世	墓塚
SK53	北	98/80/75	円形	人為堆積		近世	墓塚
SK55	北	138/125/32	長円形	人為堆積	SK54とSK55は重複ではなく1つの墓塚だった	近世	墓塚
SK56	北	118/108/73	不整形	人為堆積 遺骨は身体を折り曲げた状態で検出	銭貨6枚、鉄釘3点、薄鉄板2片	近世	墓塚
SK57	北	112/103/130	不整形	人為堆積	銭貨9枚、鉄釘6点	近世	墓塚
SK58	北	-/-/86	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK59	北	150/-/88	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK60	北	118/80/144	不整形	人為堆積	銭貨26枚、鉄銭約13枚(密着状態)、刀子1点、銅鏡1点、染付小皿1点、鉄釘約50点	近世	墓塚
SK61	北	-/-/128	不整形	人為堆積	銭貨1枚、鉄釘2点	近世	墓塚
SK62	北	120/102/157	円形	人為堆積	銭貨7枚、刀子1点、鉄釘約25点	近世	墓塚
SK63	北	80/71/20	円形	人為堆積	銭貨5点、板片1点	近世	墓塚

遺構名	位置	規模 長軸・短軸・深さ	形状	埋土	出土遺物	時期	その他
SK 6 4	北	102/89/40	不整形	人為堆積		近世	墓塚
SK 6 5	北	110/93/108	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK 6 6	北	風倒木					
SK 6 7	北	120/102/100	不整形	人為堆積	銭貨約 18 枚(密着した状態)、簪 1 点、鉄釘 8 点	近世	墓塚
SK 6 8	北	102/-/89				近世	墓塚
SK 6 9	北	100/90/123	不整形	人為堆積	銭貨 12 枚、刀子 1 点、煙管雁首 1・吸口 1 点、鉄釘 5 点	近世	墓塚
SK 7 0	北	168/130/158	不整形	人為堆積	銭貨 6 点(密着)、煙管雁首 1・吸口 1 点	近世	墓塚
SK 7 1	北	138/105/70	長円形	人為堆積 体を折り曲げた状態で出土	銭貨約 19 枚、刀子 1 点、鉄釘 1 点	近世	墓塚
SK 7 2	北	94/94/96	不整形	人為堆積 遺骨は身体を折り曲げ埋した状態で検出 鉄釘が多く出土しており、桶というよりも箱に入っていた可能性がある	銭貨約 30 枚(互いに密着)、簪 1 点、鉄釘 35 点	近世	墓塚
SK 7 3	北	92/72/65	不整形	人為堆積	銭貨約 16 枚(互いに付着)	近世	墓塚
SK 7 4	北	64/-/86	不整形	人為堆積	銭貨 3 枚、刀子 1 点	近世	墓塚
SK 7 5	北	80/56/92	不明	人為堆積 埋土上位に扁平な角礫		近世	墓塚
SK 7 6	北	74/60/93	長円形	人為堆積 埋土中位に礫		近世	墓塚
SK 7 7	北	68/52/51	長円形	人為堆積	銭貨約 30 枚(互いに付着)、板材 1 点、鉄釘 11 点	近世	墓塚
SK 7 8	北	88/80/92	不明	人為堆積	銭貨 4 枚、鉄釘 12 点	江戸時代後期か	墓塚
SK 7 9	北	50/-/103	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK 8 0	北	235/214/118	円形	自然堆積 褐色土や黄褐色土が流れ込み		縄文時代	貯蔵穴
SK 8 1	北	92/80/52	不明	人為堆積		近世	墓塚
SK 8 2	北	134/98/59	不整形	人為堆積		近世	墓塚
SK 8 3	北	48/-/74	不明	人為堆積		近世	墓塚

第 3 表 柱穴観察表

遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	遺構名	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)
SI01 P1	0.448	0.331	0.193	SI02 P2	0.802	0.583	0.322	P-2	0.456	0.408	0.174
SI01 P2	0.456	0.396	0.263	SI02 P3	0.625	0.5	0.364	P-3	0.526	0.359	0.19
SI01 P3	0.893	0.571	0.189	SI02 P4	0.656	0.405	0.324	P-4	0.656	0.408	0.399
SI01 P4	0.353	0.256	0.297	SI02 P5	0.533	0.477	0.568	P-5	0.71	0.616	0.258
SI01 P5	0.991	0.359	0.429	SI02 P6	0.76	0.667	不明	P-6	0.595	0.568	0.466
SI02 P1	0.602	0.547	0.313	P-1	0.569	0.538	0.115	P-7	0.541	0.486	0.635

第 4 表 縄文土器観察表

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・原体・付着物など	胎土	その他
1	S I O 2 埋土	鉢	口縁一底	縄文はかなり擦れている	小石微量	
2	S I O 2 埋土	深鉢	口縁	高さの異なる波状口縁、細い沈線で長円風区画に磨消、L R	細砂	2 と同一
3	S I O 2 埋土	深鉢	口縁	口縁肥厚、隆帯貼付		
4	S I O 2 埋土	深鉢	口縁	山形の口縁、4 本の細粘土紐を並べて貼付	細砂	
5	S I O 2 埋土	鉢	口縁	2 本の沈線による磨消で長円風文様、L R		
6	S I O 2 埋土	ミニチュア	底部	細く浅い沈線		

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・原体・付着物など	胎土	その他
7	遺構外 検出面	深鉢	口縁	細結土縞を横位・波状に貼付, R.L.	細砂	
8	遺構外 検出面	深鉢	口縁	地文R.L.の上に沈線と隆帯を組み合わせた円形風文様	細砂	
9	遺構外 検出面	深鉢	口縁	粘土縞と沈線を組み合わせて文様細く, R.L.	細砂	
10	遺構外 検出面	深鉢	体部	隆帯による区画 外面に煤		10と同一
11	遺構外 検出面	深鉢	体部	隆帯による区画 R.L.		11と同一
12	遺構外 検出面	深鉢	体部	地文の上に隆帯の貼付	細砂	
13	遺構外 水道管部	深鉢	体部	地紋のみ	細砂	埋設?
510	S I O 2埋土	深鉢	口縁	波状口縁, 細沈線で長円風の区画をして磨削	細砂	2と同一

第5表 土師器観察表

掲載番号	種類	器種	出土地点・層位	法量 (cm)			外面調整	内面調整	その他
				口縁	底径	器高			
82	土師器	甕	S I O 1埋土	-	-	-	口縁弱いヨコナデ, 体部弱いヘラナデ	横方向のナデ	1-4 同一か
83	土師器	甕	S I O 1埋土	-	-	-	体部ナデか	ナデ	1-4 同一か
84	土師器	甕	S I O 1埋土	-	-	-	体部ナデか	横方向の弱いナデ	1-4 同一か

第6表 陶磁器観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	法量 (cm)			釉薬	絵付・文様	産地	年代	その他
			口径	底径	器高					
22	陶器甕	SK 2 4埋土他	22.5	13.1	20.0	内外面鉄釉		在地	19世紀以降	
23	陶器片口鉢	SK 2 5埋土	11.6	5.6	5.7	内外面灰釉		在地	19世紀代	見込に目跡
24	磁器碗	SK 2 7埋土			3.7	染付	二重網目	肥前	18世紀代	破片の副葬か
25	磁器紅皿	SK 2 8埋土	4.7	1.7	1.7	透明釉		肥前	18後-19世紀	
26	磁器碗	SK 2 8埋土			4.5	染付		肥前	18-19世紀	破片の副葬か
32	陶器碗	SK 2 9埋土		3.4	1.4	内面灰釉		在地	19世紀	破片の副葬か
33	磁器紅皿	SK 3 0埋土	4.4	1.2	1.3	透明釉		肥前	18後-19世紀	破片の副葬か
34	陶器碗	SK 3 0埋土			4.3	内面灰釉, 外面灰釉と鉄釉	腰鎗碗	瀬戸美濃	18世紀代	破片の副葬か
39	磁器碗	SK 3 4埋土	7.0		5.7	染付		肥前	18-19世紀	破片の副葬か
49	磁器碗	SK 4 7埋土	7.3	3.4	6.3	染付	海老・富士・宝珠等	肥前系	18-19世紀	破片の副葬か
59	磁器小瓶	SK 6 0埋土	2.6	4.4	12.2	染付	唐草文	肥前か	18-19世紀	端反ラッキョウ形
75	磁器碗	北側調査区Ⅲ区遺構外	9.7	4.2	5.1	染付	草花文	肥前	18世紀後半	
76	磁器碗	北側調査区Ⅲ区遺構外	9.2	3.8	5.2	染付	草花文	肥前	18世紀後半	

第7表 羽口観察表

掲載番号	出土地点・層位	残存部位	計測値 (cm, g)				外面整形	その他	
			長さ	内径	口径	重量			
85	S I O 1床面	先端部	10.5		3.2	7.7	670.8	不明	炉内埋付着

第8表 鉄滓観察表

掲載番号	出土地点・層位	種別	計測値 (cm, g)				磁着	表面色調	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
520	S I O 1埋土	鉄滓	11.8	11.3	5.6	850.8	しない	暗褐色	

第9表 鉄製品観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	計測値 (cm, g)				その他特記事項
			全長	幅	厚さ	重量	
20	鉄鍋	SK 2 2 埋土	口径 23.4	器高 10.7	0.5	417.2	脚 3
21	金具	SK 2 4 埋土	5.0	2.9	0.4	15.8	図右側が欠損
27	鉄鍋	SK 2 9 埋土	口径 24.0	器高 11.5	0.5	1323.2	脚 3
28	鍔部か	SK 2 6 埋土	17.5	16.0	5.6	100.1	引出の鍔部か
29	刃物	SK 2 9 埋土	25.8	4.4	0.8	271.8	
41	鎌	SK 4 1 埋土	17.0	4.1	0.3	120.7	
42	刀子	SK 4 3 埋土	10.7	2.0	0.4	13.3	
43	刀子	SK 4 3 埋土	8.9	2.0	0.5	10.7	
47	金具	SK 4 7 埋土	8.3	6.2	0.7	30.2	
48	引出取手	SK 4 7 埋土	8.6	5.1	0.8	34.8	
50	鉄鍋	SK 4 7 埋土	口径 23.8	器高 12.6	0.5	1329.6	脚 3、吊手
52	鉄製品	SK 4 9 埋土	3.9	3.7	0.6	49.1	滑車?
53	鈴か	SK 4 9 埋土	3.8	3.4	1.5	13.0	表面に布付
54	鈴か	SK 4 9 埋土	4.5	3.8	1.9	12.2	表面に布付
56	刀子	SK 5 0 埋土	12.0	2.2	0.5	34.5	
60	刀子	SK 6 0 埋土	10.1	2.4	0.6	25.1	
61	刀子	SK 6 0 埋土	11.2	2.0	0.4	22.2	
62	刀子	SK 6 2 埋土	13.0	2.0	0.4	27.7	
64	刀子	SK 6 9 埋土	8.8	1.8	0.4	12.7	
70	刀子	SK 7 4 埋土	7.0	2.0	0.4	14.5	

第10表 銅製品観察表

掲載番号	器種	出土地点・層位	計測値 (cm, g)				その他特記事項
			全長	幅	厚さ	重量	
14	煙管雁首	SK 0 6 埋土	(4.5)	1.2	火皿径 1.2	8.1	断面隅丸三角形
15	煙管雁首	SK 0 6 埋土	(7.0)	1.0	火皿径 1.5	7.9	布付
16	煙管	SK 0 6 埋土	(5.2)	1.2	小口径 0.5	9.4	
17	簪	SK 0 7 埋土	(7.0)	0.8	0.2	3.6	
18	煙管雁首	SK 1 1 埋土	(8.0)	1.1	火皿径 1.8	11.2	
19	煙管	SK 1 1 埋土	(6.5)	1.1	小口径 0.5	7.1	
30	引手金具の一部か	SK 2 9 埋土	7.0	0.7	0.2	5.0	
31	引手金具	SK 2 9 埋土	6.0		0.4	10.1	鍔手
35	毛拔	SK 3 3 埋土	7.2	0.6	0.2	8.3	
36	煙管雁首	SK 3 4 埋土			火皿径 1.7	6.2	折れている
37	煙管	SK 3 4 埋土	(8.0)	0.9	小口径 0.5	3.4	
38	煙管	SK 3 4 埋土	(7.2)	0.9	小口径 0.5	3.6	
40	不明	SK 3 5 埋土	(3.1)	(2.0)	0.1	1.0	
44	煙管雁首	SK 4 4 埋土	(6.1)	1.2	火皿径 1.4	13.7	
45	煙管	SK 4 4 埋土	(9.7)	1.1	小口径 0.7	14.7	
46	簪	SK 4 4 埋土	16.6	0.8	0.2	15.2	
51	簪	SK 4 8 埋土	18.6	0.9	0.2	14.8	布付
57	煙管雁首	SK 5 0	(5.1)	1.1	火皿径 1.5	8.7	布付
58	鏡	SK 6 0 埋土	13.2	7.8	0.3	71.8	
63	簪	SK 6 7 埋土	18.8	0.9	0.3	16.4	
65	煙管	SK 6 9 埋土	(6.1)	(1.0)		5.2	
66	煙管	SK 6 9 埋土	(8.4)	(1.2)	小口径 0.5	7.3	
67	煙管雁首	SK 7 0 埋土	(5.1)	(1.5)	火皿径 1.7	15.5	
68	煙管	SK 7 0 埋土	(9.0)	(1.5)	小口径 0.8	18.8	
69	簪	SK 7 2 埋土	13.4	1.1	0.3	9.3	
71	飾具	SK 7 7 埋土	1.1	0.9		0.30	
72	飾具	SK 7 7 埋土	1.5	2.5	0.5	1.90	
73	飾具	SK 7 7 埋土	(2.1)	(2.0)		1.04	
74	飾具	SK 7 7 埋土	(4.7)	0.6	0.1	3.49	

第11表 銭貨観察表

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初時年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
86	SK	7	埋土	不明	不明	銅	1.49	6.74	板に装飾として付	
87	SK	7	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.49	2.15	背無
88	SK	7	埋土	不明	不明	銅	5.14	10.17	複数枚	
89	SK	10	埋土	不明	不明	銅	1.15	2.07		
90	SK	10	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.19	3.03	
91	SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.30	2.81	背無
92	SK	10	埋土	不明	不明	銅	1.35	2.73		
93	SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.37	背無
94	SK	10	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.30	2.71	背無
95	SK	11	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.26	2.82	背無
96	SK	11	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.32	3.30	
97	SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.08	2.54	背無
98	SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.02	2.72	背無
99	SK	12	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.37	3.57	
100	SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.22	3.32	背文
101	SK	12	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.28	3.20	背文
102	SK	18	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	11.13	31.18	8枚付
103	SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.36	3.31	
104	SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.18	2.94	
105	SK	22	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.28	3.49	
106	SK	22	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.34	2.91	背無
107	SK	24	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.25	2.46	
108	SK	24	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.27	3.14	背文
109	SK	24	埋土	不明	不明	銅	1.39	3.94		
110	SK	24	埋土	不明	不明	銅	1.26	4.40		
111	SK	25	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.45	3.67	
112	SK	25	埋土	不明	不明	銅	5.68	11.40	複数枚	
113	SK	27	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.42	2.14		
114	SK	28	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.88	2.52	背無
115	SK	28	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.00	2.42	背無
116	SK	29	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	0.88	2.42	
117	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.15	2.43	背文
118	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.96	背無
119	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.37	背無
120	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.04	2.42	背無
121	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.06	2.25	背無
122	SK	29	埋土	不明	不明	銅	1.11	2.93		
123	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.30	背無 複数の孔
124	SK	29	埋土	寛永通宝	不明	銅	0.94	2.34		
125	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.06	背無
126	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.26	2.71	背文
127	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.74	背無
128	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.28	背無
129	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.07	2.67	背無
130	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.84	2.26	背無
131	SK	29	埋土	寛永通宝	不明	銅	1.37	2.29		
132	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.26	2.91	背無
133	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.94	2.15	背無
134	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.88	1.40	背無
135	SK	29	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.29	2.10	
136	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	3.08	背無
137	SK	29	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.16	1.40	背文
138	SK	30	埋土	不明	不明	銅	2.05	4.68	2枚付	
139	SK	30	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.45	3.74	背文
140	SK	30	埋土	不明	不明	鉄か	2.21	3.17		
141	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.44	3.45	背無
142	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.39	3.70	背文
143	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.14	2.80	背文
144	SK	33	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.21	2.75	
145	SK	33	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.04	2.35	
146	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.29	3.58	背無
147	SK	33	埋土	不明	不明	銅	1.07	2.34		
148	SK	33	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.42	3.58	
149	SK	33	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.22	3.82	
150	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.30	3.61	背文
151	SK	33	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.34	2.98	背文
152	SK	33	埋土	渡来銭	渡来銭	中世	1.67	3.42		
153	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	2.26	3.98	2枚付
154	SK	34	埋土	不明	不明	不明	1.37	2.11		
155	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.37	3.25	背無
156	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.32	背無

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鋳年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
157	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.19	2.18	背無
158	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.36	3.02	背無
159	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.39	3.05	背無
160	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	2.80	6.89	3枚付
161	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	4.37	9.94	4枚付
162	SK	34	埋土					1.06	2.17	
163	SK	34	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.37	3.04	
164	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	1636	銅	1.24	2.22	
165	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	1636	銅	1.18	2.32	
166	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.18	
167	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.59	3.49	
168	SK	34	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.46	3.84	
169	SK	34	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.29	3.22	
170	SK	34	埋土	不明	不明	不明	銅	3.15	4.87	複数枚
171	SK	36	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	0.86	2.38	
172	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.38	3.77	背無
173	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.45	3.76	背文
174	SK	36	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.16	2.96	
175	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.44	4.39	背無
176	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.41	3.94	背文
177	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.42	3.65	背文
178	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.39	3.46	背無
179	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.55	3.83	背無
180	SK	36	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.41	3.28	背無
181	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.50	3.26	背無
182	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.49	3.26	背無
183	SK	43	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.44	3.72	背文
184	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.17	2.89	
185	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.20	3.12	
186	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.10	2.35	
187	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	2.10	5.11	2枚付
188	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	2.28	4.53	2枚付
189	SK	44	埋土	腰銭か	不明	不明	銅	2.14	5.30	2枚付
190	SK	44	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.22	3.62	
191	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	1.11	2.65	
192	SK	44	埋土	不明	不明	不明	銅	3.17	5.93	2枚着
193	SK	44	埋土	不明	不明	不明	鉄か	3.31	4.37	
194	SK	47	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.23	3.32	背文
195	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.58	2.93	
196	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1768	銅	1.31	3.58	背渡 布付
197	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.31	2.39	
198	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.15	2.57	
199	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.45	3.62	
200	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.26	2.88	
201	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.12	1.71	
202	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.33	2.77	
203	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.09	2.04	
204	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.56	3.19	
205	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.29	3.05	
206	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.15	2.99	
207	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.15	2.80	背無
208	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.11	2.22	
209	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.16	3.20	
210	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.98	2.41	背無
211	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.44	3.42	
212	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.28	3.12	
213	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.54	2.82	背無
214	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.39	3.02	
215	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.11	2.46	背無
216	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.01	2.72	
217	SK	48	埋土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.44	2.49	
218	SK	48	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.64	
219	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.20	3.50	
220	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.20	3.53	
221	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.08	2.21	
222	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.12	2.74	
223	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.14	2.35	
224	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.19	2.54	
225	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.24	3.30	
226	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.44	4.35	
227	SK	48	埋土	不明	不明	不明	銅	1.36	3.28	
228	SK	48	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.17	3.18	

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鋳年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
229	SK	48	寛永通宝	不明	不明	銅	1.32	2.75		
230	SK	48	文久永宝	不明	1863	銅	1.27	3.42		
231	SK	48	理土	不明	不明	銅	1.10	2.05		
232	SK	48	理土	不明	不明	銅	4.02	8.33	3枚付	
233	SK	48	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.12	2.93		
234	SK	48	理土	不明	不明	銅	4.14	9.33		
235	SK	48	理土	文久永宝	不明	1863	銅	1.51	3.63	
236	SK	48	理土	文久永宝	草文	1863	銅	1.07	3.22	
237	SK	48	理土	文久永宝	草文	1863	銅	1.22	4.15	
238	SK	48	理土	文久永宝	草文	1863	銅	4.46	14.27	複数枚付
239	SK	48	理土	文久永宝	不明	1863	銅	1.17	3.77	
240	SK	48	理土	文久永宝	草文	1863	銅	1.16	3.81	
241	SK	48	理土	文久永宝	草文	1863	銅	1.13	3.68	
242	SK	48	理土	近代	近代	明治	1.68	6.78		
243	SK	48	理土	文久永宝	真文	1863	銅	0.93	3.14	
244	SK	48	理土	明治	一銭	明治	1.70	6.87		
245	SK	48	理土	明治	一銭	明治	1.59	6.99		
246	SK	48	理土	明治	一銭	明治十年	1.64	6.74		
247	SK	48	理土	明治	二銭	明治	2.50	14.54		
248	SK	48	理土	天保通宝	當百	1835	銅	2.78	21.88	
249	SK	48	理土	天保通宝	當百	1835	銅	2.90	21.71	
251	SK	48	理土	不明	不明	不明	銅	4.99	10.28	複数枚
252	SK	48	理土	不明	不明	不明	銅	4.33	6.71	2枚
253	SK	49	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.05	2.63	背無
254	SK	49	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.13	2.63	背無
255	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.05	5.84	
256	SK	49	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	0.99	2.25	
257	SK	49	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	2.84	背無
258	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.81	4.63	
259	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.28	5.07	
260	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.40	6.05	
261	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	3.25	10.28	2枚付
262	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.31	2.09	
263	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.16	5.69	背渡
264	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.66	4.80	背渡
265	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.99	5.57	2枚付
266	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.80	3.33	
267	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.61	5.29	
268	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.73	4.62	
269	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.65	2.90	
270	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	4.95	11.37	2枚付
271	SK	49	理土	寛永通宝	新寛永	不明	鉄か	1.90	2.77	不明
272	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.68	5.68	
273	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.59	5.88	
274	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.71	8.26	
275	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.96	5.52	
276	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.10	1.89	
277	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.82	1.85	
278	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.62	3.77	
279	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.07	6.16	
280	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.59	3.29	
281	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	3.77	9.13	2枚付
282	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.66	9.14	2枚付
283	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.60	3.25	
284	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	3.99	11.51	2枚付
285	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.76	1.51	
286	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.51	4.62	
287	SK	49	理土	不明	不明	不明	銅	1.72	3.25	
288	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.08	4.77	
289	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.85	4.24	
290	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.03	6.15	
291	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.76	3.06	
292	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.96	4.83	
293	SK	49	理土	寛永通宝	不明	不明	鉄か	1.84	5.73	
294	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.98	5.25	
295	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.59	5.45	
296	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.44	6.57	
297	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.07	5.96	
298	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	1.59	3.33	
299	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.09	2.71	
300	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.35	7.13	
301	SK	49	理土	不明	不明	不明	鉄か	3.86	8.17	複数枚

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鋳年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
302	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	3.11	9.19	2枚
303	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	5.22	10.81	複数枚
304	SK	49	埋土	不明	不明	銅	6.55	9.92	複数枚
305	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	4.57	6.77	2枚
306	SK	47	埋土	不明	不明	銅	1.17	21.57	板に装飾として付
307	SK	47	埋土	不明	不明	銅	1.30	5.56	板に装飾として付
308	SK	47	埋土	不明	不明	銅	0.99	8.20	板に装飾として付
309	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	0.89	1.94	背無
310	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	0.99	2.96	背無
311	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	2.93	7.24	複数枚付
312	SK	48/51	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	3.41	9.09	3枚付
313	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.22	3.07	
314	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.06	2.47	背無
315	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.23	3.37	背無
316	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.22	2.95	背無
317	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.05	2.87	複数枚付
318	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.12	2.66	背無
319	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.59	4.30	背無
320	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.31	3.41	背無
321	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.15	3.09	背無
322	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.01	1.94	背無
323	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.24	2.98	背無
324	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.04	2.57	背無
325	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.07	2.72	
326	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.05	2.59	背無
327	SK	50	埋土	寛永通宝	不明	不明	1.01	2.70	
328	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.04	2.42	背無
329	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.12	3.11	
330	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.25	3.02	
331	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.14	2.84	
332	SK	50	埋土	寛永通宝	不明	不明	3.61	8.37	3枚付
333	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.24	3.60	
334	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.03	2.71	背無
335	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.01	2.44	背無
336	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.07	2.77	背無
337	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	1.48	4.22	背文
338	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	1.32	3.51	背文
339	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.35	3.11	
340	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.30	3.97	背無
341	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.34	3.74	背無
342	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.16	2.60	背無
343	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.32	3.58	
344	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.25	3.60	
345	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.00	2.79	背無
346	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.01	2.67	背無
347	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.10	2.33	背無
348	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.16	2.70	背無
349	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.05	2.41	背無
350	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.13	2.95	背無
351	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.05	2.27	背無
352	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.07	2.79	背無
353	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.21	2.63	背無
354	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	0.94	2.29	背無
355	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.11	2.59	背無
356	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.35	3.93	
357	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.38	3.27	背無
358	SK	50	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.15	3.18	
359	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.16	2.38	背元
360	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.24	2.44	背元
361	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.24	2.69	背無
362	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.05	2.75	背無
363	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	1.15	3.04	背文
364	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.14	2.61	背無
365	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	0.99	2.23	背無
366	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.18	3.17	背無
367	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.47	3.18	
368	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.39	2.80	
369	SK	50	埋土	不明	不明	銅	2.37	6.66	2枚
370	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.84	4.14	
371	SK	50	埋土	不明	不明	銅	3.22	7.04	2枚
372	SK	50	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	2.44	6.27	2枚
373	SK	50	埋土	不明	不明	銅	1.04	6.35	

掲載 番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鋳年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他	
374	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	1.58	背無
375	SK	51	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.31	3.28	
376	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.32	3.04	背無
377	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.17	2.92	背無
378	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.52	3.83	背無
379	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.40	3.84	背無
380	SK	51	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.12	2.62	
381	SK	51	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.68	4.29	
382	SK	51	理土	鑄銭か	名なし	不明	銅	0.92	1.92	
383	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.54	背無
384	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.24	3.60	背無
385	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.28	3.10	背無
386	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.49	3.83	
387	SK	51	理土	不明	不明	不明	銅	1.43	2.80	布付
388	SK	51	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.27	3.24	背無
389	SK	51	理土	不明	不明	不明	銅	1.76	2.47	
390	SK	51	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.36	3.77	
391	SK	51	理土	不明	不明	不明	銅	5.43	9.16	3枚付
392	SK	51	理土	不明	不明	不明	銅	2.76	4.40	
393	SK	51	理土	不明	不明	不明	銅	2.00	3.63	
394	SK	56	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	2.88	背無
395	SK	56	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.55	4.05	背無
396	SK	56	理土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.28	3.71	
397	SK	56	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.04	2.43	
398	SK	56	理土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.17	2.99	
399	SK	56	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.19	2.56	
400	SK	57	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.04	2.04	背無
401	SK	57	理土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.27	3.21	背文
402	SK	57	理土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.18	1.54	
403	SK	57	理土	寛永通宝	新寛永	不明	銅	1.11	2.79	
404	SK	57	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.14	2.58	背無
405	SK	57	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.39	3.13	
406	SK	57	理土	不明	不明	不明	銅	4.04	6.64	鏽蝕蝕付着
407	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.29	2.81	背無
408	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.37	3.69	背無
409	SK	60	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.62	3.35	
410	SK	60	理土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.26	2.96	
411	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.95	2.18	背無
412	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.10	2.89	背無
413	SK	60	理土	不明	不明	不明	銅	1.12	2.06	
414	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.93	2.48	背無
415	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.33	3.28	背無
416	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.21	3.41	背文
417	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.03	2.33	背無
418	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.01	2.57	背無
419	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.48	3.22	背無
420	SK	60	理土	不明	不明	不明	銅	0.98	2.35	
421	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.25	3.54	背文
422	SK	60	理土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.16	3.38	
423	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.91	2.13	背無
424	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.50	3.34	背無
425	SK	60	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.57	4.00	
426	SK	60	理土	不明	不明	不明	銅	1.05	2.36	
427	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.18	2.71	背無
428	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.38	1.84	背無
429	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.38	3.14	背文
430	SK	60	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.43	4.00	
431	SK	60	理土	不明	不明	不明	銅	1.22	4.95	2枚
432	SK	60	理土	不明	不明	不明	鉄か	3.70	5.21	2枚
433	SK	60	理土	不明	不明	不明	鉄か	6.86	10.51	3枚
434	SK	61	理土	不明	不明	不明	鉄か	2.03	3.94	
435	SK	62	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.05	2.84	背無
436	SK	62	理土	寛永通宝	新寛永	1668	銅	1.20	3.43	背文
437	SK	62	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.35	2.98	背無
438	SK	62	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.13	2.69	背無
439	SK	62	理土	寛永通宝	不明	不明	銅	1.27	3.57	
440	SK	62	理土	寛永通宝	古寛永	1636	銅	1.13	3.11	
441	SK	63	理土	不明	不明	不明	銅		3.08	板に裝飾として付
442	SK	63	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	1.09	2.89	背無
443	SK	63	理土	不明	不明	不明	銅	2.22	5.85	2枚付
444	SK	63	理土	寛永通宝	新寛永	1697	銅	0.89	1.93	背無
445	SK	63	理土	不明	不明	不明	銅	2.14	2.55	

掲載番号	出土地点	層位	銭貨名	種類	初鋳年 鋳造年	材質	厚さ (mm)	重量g	その他
446	SK	67	埋土	不明	不明	銅	12.55	27.05	複数枚付
447	SK	67	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	3.07	6.99	3枚付
448	SK	67	埋土	不明	不明	銅	6.38	16.50	5枚付
449	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.40	2.38	
450	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.93	3.11	
451	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.46	2.92	
452	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.23	2.91	
453	SK	69	埋土	不明	不明	銅	1.49	3.29	
454	SK	69	埋土	不明	不明	銅	2.62	6.04	2枚付
455	SK	69	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.07	2.49	背無
456	SK	69	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	1.15	3.94	背面に突起物有
457	SK	71	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.17	3.26	
458	SK	71	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	2.22	5.70	2枚付
459	SK	71	埋土	不明	不明	不明	5.37	13.24	5枚付
460	SK	71	埋土	不明	不明	銅	3.83	5.20	複数枚付、雑穀殻
461	SK	71	埋土	不明	不明	銅	6.51	7.07	雑穀殻付着
462	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.30	2.98	背無
463	SK	72	埋土	寛永通宝	不明	不明	1.03	1.83	
464	SK	72	埋土	不明	不明	銅	0.94	2.13	
465	SK	72	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.16	2.84	
466	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.18	2.40	背無
467	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.27	3.16	背無
468	SK	72	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.06	2.41	背無
469	SK	72	埋土	不明	不明	銅	1.04	2.17	
470	SK	72	埋土	寛永通宝	不明	不明	0.95	2.55	
471	SK	72	埋土	不明	不明	鉄か	2.91	3.35	
472	SK	72	埋土	不明	不明	鉄か	3.76	3.49	
473	SK	72	埋土	不明	不明	鉄か	11.54	18.36	複数枚
474	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.20	2.70	背無
475	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1768	1.21	4.93	確認すること
476	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1768	1.60	5.45	背割
477	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.32	3.26	背無
478	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	0.94	2.13	背無
479	SK	73	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.07	2.61	
480	SK	73	埋土	不明	不明	銅	1.47	2.26	
481	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	不明	1.24	3.27	
482	SK	73	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.03	2.25	背無
483	SK	73	埋土	寛永通宝	不明	不明	0.96	2.45	
484	SK	73	埋土	不明	不明	鉄か	5.96	13.56	複数枚
485	SK	74	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.49	3.62	背無
486	SK	74	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.27	2.82	背無
487	SK	74	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.43	2.50	背無
488	SK	77	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.26	2.67	背無
489	SK	77	埋土	寛永通宝	古寛永	1636	1.12	3.43	
490	SK	77	埋土	元祐通宝	匭葉銭	中世	1.26	3.52	
491	SK	77	埋土	不明	不明	銅	1.37	3.35	
492	SK	78	埋土	寛永通宝	新寛永	1697	1.27	2.51	背無
493	SK	78	埋土	寛永通宝	新寛永	1668	1.38	3.82	背無
494	SK	78	埋土	不明	不明	銅	1.15	3.04	柄付付着
495	北洞	田区	遺構外	寛永通宝	新寛永	1697	1.17	2.42	背無
501	SK	44	埋土	不明	不明	鉄か	7.35	14.89	複数枚
502	SK	44	埋土	不明	不明	鉄か	6.00	10.02	複数枚
503	SK	44	埋土	不明	不明	鉄か	4.89	8.94	複数枚
504	SK	44	埋土	不明	不明	鉄か	3.59	3.27	複数枚
505	SK	48	埋土	不明	不明	鉄か	2.09	3.42	破砕
506	SK	49	埋土	不明	不明	鉄か	19.53	49.43	複数枚
507	SK	51	埋土	不明	不明	鉄か	3.55	4.91	複数枚
508	SK	60	埋土	不明	不明	鉄か	4.29	10.11	複数枚
509	SK	60	埋土	不明	不明	鉄か	18.47	49.49	複数枚
441	SK	63	埋土	寛永通宝	不明	不明	1.33	3.04	359の一部
510	SK	69	埋土	寛永通宝	不明	近世	6.22	4.77	3枚
511	SK	70	埋土	不明	不明	銅	16.14	24.22	複数枚
512	SK	72	埋土	不明	不明	銅	19.00	35.80	複数枚
513	SK	77	埋土	不明	不明	鉄か	32.47	81.27	複数枚

第12表 石器類観察表

掲載番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				石材	その他	
			長さ	幅	厚さ	重量			
77	遺構外	石鏝	3.2	1.6	0.2	1.62	頁岩	中生代	北上山地
78	S I O 2 埋土	閉器	1.8	2.9	0.5	3.59	頁岩	中生代	北上山地
79	S I O 2 埋土	磨石	12.5	7.8	6.6	818.9	花園閃緑岩	中生代白帯紀	北上山地
80	南洞調査区横出面	石棒か	5.6	2.3	2.1	55.5	蛇紋岩	古生代オルビス紀	早池峰山周辺
81	SK O 3 埋土	磨石	6.1	4.4	5.3	166.5	花園閃緑岩	中生代白帯紀	北上山地

V 自然科学分析

赤前Ⅲ遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

赤前Ⅲ遺跡は、岩手県宮古市赤前第10地割ほか(北緯 $39^{\circ} 34' 51''$ 、東経 $141^{\circ} 57' 26''$)に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡と炭窯跡から出土した炭化物2点である(表1)。

2 測定の意義

出土遺物が少ないため、遺構の年代を決定する根拠の一つとする。

3 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2)酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 $1\text{mol}/\ell$ (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、 0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、 1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3)試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO_2)を発生させる。
- (4)真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6)グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC社製)を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(Hox II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差

範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 σ = 68.2%)あるいは2標準偏差(2 σ = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCal v4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の¹⁴C年代は、1が1100 \pm 20yrBP、2が820 \pm 20yrBPである。暦年較正年代(1 σ)は、1が900~985cal ADの間に2つの範囲、2が1211~1257cal ADの範囲で示される。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152649	1	1号住居跡	埋土	炭化物	AAA	-24.31 \pm 0.24	1,100 \pm 20 87.24 \pm 0.26
IAAA-152650	2	1号炭窯跡	埋土	炭化物	AAA	-25.10 \pm 0.31	820 \pm 20 90.30 \pm 0.28

[# 7772]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152649	1,090 \pm 20	87.36 \pm 0.26	1,096 \pm 24	900calAD - 922calAD (26.3%) 949calAD - 985calAD (41.9%)	891calAD - 995calAD (95.4%)
IAAA-152650	820 \pm 20	90.28 \pm 0.27	819 \pm 24	1211calAD - 1257calAD (68.2%)	1170calAD - 1263calAD (95.4%)

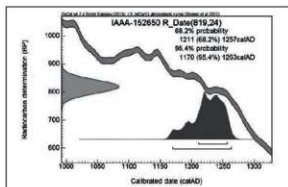
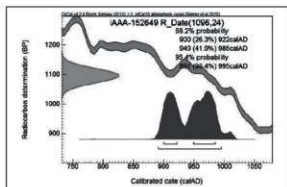
[参考値]

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ(参考)

VI 総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになったこと、周辺遺跡の調査状況などを合わせて現段階で推察される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

・遺跡は宮古湾の最奥部、重茂半島の付根部分に位置する。主に西側（海側）へ面する緩斜面地（南側調査区）と西へ張り出す尾根及び山裾部（北側調査区）にあたり、赤前地区および宮古湾内や津軽石川河口部に広がる平野を望める場所にある。

<南側調査区>

・緩斜面部からは平安時代の竪穴住居跡が1棟、縄文時代の竪穴住居跡1棟が見つかっている。過去の調査により、この緩斜面からは縄文時代、平安時代他の遺構・遺物が数多く確認されており、断続的ではあるが頻繁に集落として利用されていた場所であった。今回の調査区が、この緩斜面部の中でも標高の高いところであり、北側は浅い沢状の地形になっていたこと、検出遺構がこれまでの調査に比べて少なくなっていることなどから、集落の縁辺部にあたるような場所を調査したと考えている。

<北側調査区>

・調査区北側の尾根部からは古代の炭窯1基、縄文時代の陥し穴1基とフラスコ状土坑2基、近世墓約75基が見つかっている。

・陥し穴は長軸が約4mと通常のものよりも大きい。単独での検出で周囲からは陥し穴が検出されなかった。調査区外へ展開すると仮定するならば西側しか可能性がないのだが、地形的に数基程度の空間しかなく、狩猟の場として頻繁に使われていた場所ではないと考えている。

・貯蔵穴（フラスコ状土坑）は2基見つかっているが、その周囲から竪穴住居跡は見つかっていない。基本的に角度ある斜面地形であるため住居を造るには適さなかったであろう。むしろ調査区外の西側がやや緩斜面となっているので居住域となっていたと推察される。

・中世の炭窯は1基のみの検出であった。採取した炭粒の年代測定から時期決定した。長軸方向で5.7m以上ある伏焼きの炭窯で、底面付近のみが残存していた。この炭窯の端部が調査区外の東側へと延びていること、その調査区外の東側は現在、墓地になっているが斜面はそれほど急ではないことなどから、こちらに炭窯が複数分布していても不自然ではない。

・近世墓は現在も墓地となっていた場所を中心に分布していた。73基を登録しているが、事前に改葬が行われており本来はもう少し多かったといえる。何れも土壇墓で火葬墓は無い。平面形が隅丸方形を基調とするものが多く、長方形基調のものは殆ど無い。1.5mを超えるような深い墓塚が多いのも特徴の一つと言える。

・墓塚に副葬されていた遺物には陶磁器、鉄鍋、刀子類、銭貨、煙管、簪、鏡、木箱？等があり、棺に使われていたとみられる鉄釘も出土している。これらの遺物を見る限り18世紀以降の墓が多く、18世紀後半から19世紀前半が中心である。17世紀より古い段階の墓はない。最も新しい墓は明治20年代であった。

・多量の銭貨が出土しているが「縹」の状態でも副葬され、中には密着して剥がれないものも多く種類が分からないものもあった。所謂鉄銭とみられるものも多くあったが腐食が進んでおり判読できたものはない。

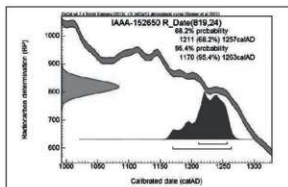
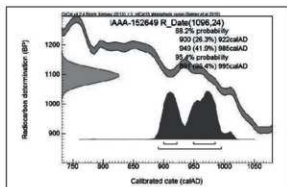
・鉄鍋を伏せた状態で副葬されていた墓塚が3例あった。墓塚そのものの形態は他と変わらない。配置を見るとSK29が少し離れた場所に位置している。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ(参考)

VI 総括（調査のまとめ）

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになったこと、周辺遺跡の調査状況などを合わせて現段階で推察される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

・遺跡は宮古湾の最奥部、重茂半島の付根部分に位置する。主に西側（海側）へ面する緩斜面地（南側調査区）と西へ張り出す尾根及び山裾部（北側調査区）にあたり、赤前地区および宮古湾内や津軽石川河口部に広がる平野を望める場所にある。

<南側調査区>

・緩斜面部からは平安時代の竪穴住居跡が1棟、縄文時代の竪穴住居跡1棟が見つかっている。過去の調査により、この緩斜面からは縄文時代、平安時代他の遺構・遺物が数多く確認されており、断続的ではあるが頻繁に集落として利用されていた場所であった。今回の調査区が、この緩斜面部の中でも標高の高いところであり、北側は浅い沢状の地形になっていたこと、検出遺構がこれまでの調査に比べて少なくなっていることなどから、集落の縁辺部にあたるような場所を調査したと考えている。

<北側調査区>

・調査区北側の尾根部からは古代の炭窯1基、縄文時代の陥し穴1基とフラスコ状土坑2基、近世墓約75基が見つかっている。

・陥し穴は長軸が約4mと通常のものよりも大きい。単独での検出で周囲からは陥し穴が検出されなかった。調査区外へ展開すると仮定するならば西側しか可能性がないのだが、地形的に数基程度の空間しかなく、狩猟の場として頻繁に使われていた場所ではないと考えている。

・貯蔵穴（フラスコ状土坑）は2基見つかっているが、その周囲から竪穴住居跡は見つかっていない。基本的に角度ある斜面地形であるため住居を造るには適さなかったであろう。むしろ調査区外の西側がやや緩斜面となっているので居住域となっていたと推察される。

・中世の炭窯は1基のみの検出であった。採取した炭粒の年代測定から時期決定した。長軸方向で5.7m以上ある伏焼きの炭窯で、底面付近のみが残存していた。この炭窯の端部が調査区外の東側へと延びていること、その調査区外の東側は現在、墓地になっているが斜面はそれほど急ではないことなどから、こちらに炭窯が複数分布していても不自然ではない。

・近世墓は現在も墓地となっていた場所を中心に分布していた。73基を登録しているが、事前に改葬が行われており本来はもう少し多かったといえる。何れも土壇墓で火葬墓は無い。平面形が隅丸方形を基調とするものが多く、長方形基調のものは殆ど無い。1.5mを超えるような深い墓塚が多いのも特徴の一つと言える。

・墓塚に副葬されていた遺物には陶磁器、鉄鍋、刀子類、銭貨、煙管、簪、鏡、木箱？等があり、棺に使われていたとみられる鉄釘も出土している。これらの遺物を見る限り18世紀以降の墓が多く、18世紀後半から19世紀前半が中心である。17世紀より古い段階の墓はない。最も新しい墓は明治20年代であった。

・多量の銭貨が出土しているが「縹」の状態でも副葬され、中には密着して剥がれないものも多く種類が分からないものもあった。所謂鉄銭とみられるものも多くあったが腐食が進んでおり判読できたものはない。

・鉄鍋を伏せた状態で副葬されていた墓塚が3例あった。墓塚そのものの形態は他と変わらない。配置を見るとSK29が少し離れた場所に位置している。

写真图版



写真図版 1 北側調査区近景 (上が北)



道跡遠景（南から）



道跡遠景（北西から）

写真図版2 道跡遠景



南側調査区近景（上が西）



南側調査区近景（南から）

写真図版3 遺跡近景



S101平面（東から）



S101断面（東から）



S101内小鍛冶炉1平面（南東から）



S101小鍛冶炉1断面（北から）

写真図版4 S101竪穴住居跡1



S101平面 (南から)



S101内小鍛冶炉2 横出 (南西から)



S101内小鍛冶炉2平面 (南西から)



S101内小鍛冶炉2断面 (南東から)



S101内小鍛冶炉2断面 (南西から)

写真図版5 S101 竪穴住居跡2



S102 掘出状況（この段階で床面直上）（南から）



S102 貼床断面（南から）



S102 炉跡平面（南から）



S102 炉跡平面（北から）

写真図版6 S102 竪穴住居跡



S102平面 (南から)



S102伊勢断面 (東から)



S102伊勢断面 (南から)



S102伊勢断面 (東から)



基本土層 (東から)

写真図版7 S102竪穴住居跡・基本土層



SX01炭窯跡平面（西から）



SX01炭窯跡（浅い表土の直下で検出した）（西から）

写真図版8 SX01炭窯跡1



SX01 炭窯跡平面 (西から)



SX01 炭窯跡とSK23断面 (西から)



SX01 炭窯跡とSK14断面 (南から)



SX01 炭窯跡断面 (南から)



SK01 平面 (東から)



SK01 断面 (東から)

写真図版9 SX01 炭窯跡2、土坑・墓墳1



SK02 平面 (北から)



SK02 断面 (南から)



SK03 断面 (東から)



SK03 断面 (南から)



SK04 平面 (南東から)



SK04 断面 (東から)



SK06・07・09 平面 (西から)



SK06・07・09 断面 (西から)